

| | | | | | |
|---------------|---|---|--------|---|----------------|
| 教科名 | 国語 | 科目名 | 国語総合 | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | ○必修・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 927円 | 副教材・実習費 | ○あり(500)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 必修科目であり、履修成立しないと他の国語科目を選択できません。 | | | | |
| 学習目標 | 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育み、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語力を尊重してその向上を図る態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | ・ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てることができる。 | | | ・ 学習活動における発言内容 ・ ノート、プリント、ワークシート ・ 定期考査等 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | ・ 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 ・ 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 ・ 目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。 | | | ・ 学習活動における発言内容 ・ ノート、プリント、ワークシート ・ 定期考査等 ・ レポート・感想文などの作成した文章 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・ 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 | | | ・ 学習活動への参加姿勢や態度 ・ ノート、プリント、ワークシート | |
| 学期 | 学習内容・方法(予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 【随筆】「ルリボシカミキリの青」等を通して、筆者のものの見方や感じ方を読み取り、自分の生き方を振り返る。 【詩】「二十億光年の孤独」等の詩を鑑賞し、ものの見方を広げて言葉のリズムの面白さを味わう。 【古文】「古文入門」「児のそら寝」「用光と白波」等の古文入門教材を読み、文語のきまりを理解する。また話のおもしろさを味わい、古文の世界に親しむ。 【漢文】「訓読の基本」「故事」等を通じて、漢文の読み方の基礎を学習し、漢文特有の論理の面白さと故事成語の成り立ちを学ぶ。 | | | |
| 前期期末 | 間 | 【評論】「未来をつくる想像力」等の評論を読んで、社会の様々な問題について考える。 【小説】「とんかつ」等の小説に触れ、登場人物の心情を読み取り、作品を味わう。 【古文】「徒然草」等の随筆から、ものの見方感じ方の多様さを知り、中世の人々の考え方を学ぶ。 【漢文】唐詩「春暁」等の音読を通して、唐詩の規則を学ぶとともに、すぐれた表現を味わう。 | | | |
| 後期中間 | 期 | 【小説】「羅生門」等を通して登場人物の心情、描写の巧みさを学び、社会と人生について考える。 【働くということ】「鍋洗いの日々」等を読み、働く人の思いにふれ、社会に生きる自分の将来について考える。 【随想】「待つということ」等を読み、筆者のものの見方・感じ方に触れ、考えを深める。 【古文】「伊勢物語」等を読み、登場人物の心情を読み取り、古人の生き方や死生観を考える。 【漢文】「論語」を通して、孔子の思想について学び、考えを深める。 | | | |
| 後期末 | 末 | 【短歌・俳句】「その子二十」「春風や」を通して、日本固有の表現形式と日本語のリズムを学び、そこに描かれた世界を読み味わう。 【評論】「真の自立とは」等について論旨を的確につかみ、多様な価値観への自分の考えをもつ。 【小説】「沖縄の手記から」等を読み、読書の幅を広げ、生きることに考えを深める。 【古文】「詩歌」について表現の特色に注意しながら読み味わい、ものの見方について考える。 【漢文】「史記」を読み、登場人物の生き方や考え方について学び、話の展開に即して内容を理解する力を身につける。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|-------|---|---------------|
| 教科名 | 国語 | 科目名 | 国語表現 | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 407円 | 副教材・実習費 | あり(750)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 「国語総合」を履修済みであること。 「国語表現【基礎】」と「国語表現【標準】」を重複して履修することはできない。 | | | | |
| 学習目標 | 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育み、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てることができる。 | | | ・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント、ワークシート ・定期考査等 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | ・話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり深めたりすることができる。 ・相手の立場や異なる考えを尊重しつつ、論拠の妥当性を判断しながら話し合えることができる。 ・主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写の仕方などを工夫して書くことができる。 | | | ・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント、ワークシート ・定期考査等 ・レポート・感想文などの作成した文章 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えをまとめたり深めたりしようとしている。 ・相手の立場や異なる考えを尊重しつつ、論拠の妥当性を判断しながら話し合おうとしている。 ・主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写の仕方などを工夫して書こうとしている。 | | | ・学習活動への参加姿勢や態度 ・ノート、プリント、ワークシート | |
| 学期 | 学習内容・方法（予定） | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 「整った文を書く」等を通して、主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、整った文を書くために大切なことを理解する。「小論文入門」等を通して、小論文の基本的な書き方を理解し、意見を筋道を立てて書いたり、原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。さらに「国語力基礎強化ワーク」を活用しながら、漢字と語彙、一般常識のトレーニングを通して進学・就職対策にも役立てる。 | | | |
| 前期期末 | 間 | 「自己PR・面接」等を通して、自分の特長を端的に表現した印象に残るキャッチフレーズを作り、事実や出来事をふまえて、効果的な自己PRをする。模擬面接で適切な言葉遣いや態度で、質問に対して、具体的に説得力のある答え方を学ぶ。「小論文の練習」等を通して、自分の意見と対立する意見（反論）を想定して書く構成を理解し、それに沿って小論文を書く。さらに「国語力基礎強化ワーク」を活用しながら、漢字と語彙、一般常識のトレーニングを通して進学・就職対策にも取り組む。 | | | |
| 後期中間 | 期 | 「メディアを駆使する」等を通して、さまざまな通信文の形式を理解し、相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解し、相手に応じた適切な言葉遣いや対応のしかたを理解する。「メディアと情報」等を通して、メディアについて書かれた文章や資料を読み、考えたことを話し合ったり、文章にまとめたりする。さらに「国語力基礎強化ワーク」を活用しながら、漢字と語彙、一般常識のトレーニングを通して進学・就職対策にも引き続き取り組む。 | | | |
| 後期期末 | 末 | 「会話・議論・発表」等を通して、文章を読み、考えたことについて議論をしたり発表をしたりする。司会者などの役割を理解し、建設的な議論になるように協力し合いながら話し合いをして、皆が話し合いに積極的に参加し、結論を出すために貢献できるようにする。さらに「国語力基礎強化ワーク」を活用しながら、漢字と語彙、一般常識のトレーニングを通して、社会人でも必要な国語表現力を充実させる。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|-------|---|--------------|
| 教科名 | 国語 | 科目名 | 現代文A | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 763円 | 副教材・実習費 | あり()円程度(なし) |
| 受講をする上での注意 | 「国語総合」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てることができる。 | | | ・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント、ワークシート ・定期考査等 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | ・目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。 ・相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 ・近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 | | | ・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント、ワークシート ・定期考査等 ・レポート・感想文などの作成した文章 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 | | | ・学習活動への参加姿勢や態度 ・ノート、プリント、ワークシート | |
| 学期 | 学習内容・方法(予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | ・小説「ナイン」、詩歌「I was born」などを通して、表現や展開を的確に読み取り、それぞれの主題を理解する。また多様な文学の世界を味わい、人間や社会についての認識を深め、読書に親しむ態度を培っていく。 具体的には、「ナイン」においては、小説の時代背景を想像しつつ、登場人物の関係とその心情を読み取る。「I was born」においては、散文詩を読み、蜻蛉(かげろう)のイメージに託された生命への思いを深く味わう。 | | | |
| 前期期末 | 間 | ・随想「少女たちのひろしま」等を読み、人間や社会、自然などについての視野を広げ、自分なりに考える態度を身につけていく。 具体的には、「少女たちのひろしま」においては、戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える。 | | | |
| 後期中間 | 期 | ・随想「『身銭』を切るコミュニケーション」、「分からないからおもしろい」等を通して、どのような問題がどのように取り上げられているか、的確に読み取る力をつける。また人間や社会、自然などについての視野を広げ、自分なりに考える態度を身につける。具体的には、「『身銭』を切るコミュニケーション」では、筆者独自の表現や具体例の働きに注意して読み、コミュニケーションの在り方について考える。「分からないからおもしろい」では、筆者の仕事に対する姿勢がどのようなものかを理解し、仕事の持つ奥深さについて考える。 | | | |
| 後期期末 | 末 | ・小説「山月記」等を読み、表現や展開を的確に読み取り、それぞれの主題を理解する。また、多様な文学の世界を味わって人間や社会についての認識を深め、読書に親しむ態度を培っていく。 具体的には、登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|--------|---|-------------|
| 教科名 | 国語 | 科目名 | 現代文B | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修(選択) | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 881円 | 副教材・実習費 | あり()円程度(な) |
| 受講をする上での注意 | 「国語総合」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | ・ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てることができる。 | | | ・ 学習活動における発言内容 ・ ノート、プリント、ワークシート ・ 定期考査等 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | ・ 文章を読み、構成、展開、要旨などを的確にとらえることができる。 ・ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすることができる。 ・ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうことができる。 | | | ・ 学習活動における発言内容 ・ ノート、プリント、ワークシート ・ 定期考査等 ・ レポート・感想文などの作成した文章 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・ 文章を読み、構成、展開、要旨などを的確にとらえようとしている。 ・ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりしようとしている。 ・ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わおうとしている。 | | | ・ 学習活動への参加姿勢や態度 ・ ノート、プリント、ワークシート | |
| 学期 | 学習内容・方法(予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 現代作家の親しみやすい随筆「『きつとかないますよ』」「『迷う』力のすばらしさ」、また小説「ざしきわらし」等を通して、登場人物の心の交流や人間模様を読み味わいながら、現代文に慣れる。具体的には「『きつとかないますよ』」では、黙々と働くH先生の様子と、それを筆者がどのように感じているかを読み取る。「『迷う』力のすばらしさ」では、便利さを求める現代において、迷うことが人生のたのしみであり豊かさであるという筆者の考えを読み取る。「ざしきわらし」では、登場人物の心情や人物像をとらえながら、「ざしきわらし」が象徴していることを読み取っていく。 | | | |
| 前期期末 | 間 | 論説文「言葉は変わるもの、されど伝承すべきもの」、随筆「空飛ぶ魔法のほうき」、詩「小諸なる古城のほとり」「六月」等を通して、日本語を大切にすることを深めるとともに、人生や社会について考えを深める。具体的には「言葉は変わるもの、されど伝承すべきもの」では、日本語の不易と流行に対する知識を深め、日本語を学ぶ楽しみを味わう。「空飛ぶ魔法のほうき」では、少女と金物屋のおじさんとの会話から、想像力の豊かさや心のゆとりの大切さを読み取る。「小諸なる古城のほとり」「六月」では、近代、現代の有名な詩を声に出して読み、情景や心情をとらえ、言葉のリズムを味わっていく。 | | | |
| 後期中間 | 期 | 論説文「ゴリラの思いやり」、小説「こころ」、随筆「どんな人になりたかったか」等を通して、人間・社会・自然について批判的に考えたり、登場人物の心の移り変わりを読み取ったりしながら、人生そのものについて考える。具体的には「ゴリラの思いやり」では、ゴリラの流儀とはどのようなものかを読み取り、筆者の主張を理解する。「こころ」では、場面ごとの登場人物の心情とその変化、登場人物の人物像を読み取り、作品の主題を考えるとともに、比喩表現など表現上の工夫とその効果を考える。「どんな人になりたかったか」では、筆者が理想とする人間像を読み取り、自分が「どんな人になりたかったか」「どんな人になりたいか」について考えていく。 | | | |
| 後期期末 | 末 | 小説「待合室」、随想「殺し文句は永遠に一恋する伊勢物語」、短歌・俳句等を通して、それぞれの登場人物の思いや作者の心情に迫りながら目的に応じた表現の仕方を考え、探究する。具体的には「待合室」では、登場人物の人間像やそれぞれの心情を読み取り、ストーリー展開の工夫を理解する。「殺し文句は永遠に一恋する伊勢物語」では、伊勢物語第六段の内容と、それを筆者がどのように感じているかを読み取る。短歌・俳句では、短歌や俳句の特色を理解し、鑑賞する態度や方法を学んでいく。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|-------|---|-------------|
| 教科名 | 国語 | 科目名 | 古典A | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | ○通年○半期 | 履修区分 | 必修○選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 657円 | 副教材・実習費 | あり()円程度○なし |
| 受講をする上での注意 | 「国語総合」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | ・ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てることができる。 | | | ・ 学習活動における発言内容 ・ ノート、プリント、ワークシート ・ 定期考査等 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | ・ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・ 古典に表れた人間の生き方や考え方などから、伝統的な言語文化に触れることの意義を理解し、古典への関心を話し合ったり文章にまとめる。 | | | ・ 学習活動における発言内容 ・ ノート、プリント、ワークシート ・ 定期考査等 ・ レポート・感想文などの作成した文章 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・ 古典を読んで関心を持った事柄などについて図書館等を使って調べたり、関連する文章を読み比べ、人物・情景・心情などについて、感じたことや考えたことを文章にまとめたり発表したりする。 | | | ・ 学習活動への参加姿勢や態度 ・ ノート、プリント、ワークシート | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 間 | 1. 「目離れせぬ雪」(伊勢物語)等を読み、そこに描かれた人物の心情を読み味わうとともに和歌に対する理解を深める。 2. 「先帝入水」(平家物語)等を読み、登場人物の行動とその背景にある心情や意図を読み取り源平の戦いの中に生きた人々についての考えを深める。 | | | |
| 前期期末 | | 3. 「季札挂剣」等の逸話を読み、返り点や送りがなについて復習し正確に訓読できるようにする。また、音読によって漢文独特の口調を味わう。逸話の中に登場する人物たちの心情や行動を読み取り、漢文に対する興味・関心を持てるようにする。 4. 「鴻門の会」(史記)等を読み、項羽と劉邦という人物を中心として、大きく動く歴史の中で活躍する登場人物たちの立場・心情・行動などを考える。『史記』という歴史書を読むことによって、歴史の深さや面白みに気づくようにする。 | | | |
| 後期中間 | 期 末 | 5. 「日野山の閑居」(方丈記)等を読み、人間・社会・自然などについて、現代と対比しながら考えを深めていく。中世に現れた無常観という考え方を当時の災害と仏教的な考えとあわせて理解する。 6. 「もののあはれ」(源氏物語玉の小櫛)等を読み、平安時代の物語文学に対する評論という形式を理解する。本居宣長の主張を理解し、その主張である「もののあはれ」について考える。 | | | |
| 後期末 | | 7. 「桃花源記」(陶淵明集)等を読み、当時の世相から生み出された古代の理想世界について考える。漢文の口調に慣れ、さらに桃源郷を描写する巧みさを味わう。 8. 「諸葛孔明」(十八史略)等を読み、三国志に描かれる時代背景を理解し、諸葛孔明や登場人物たちの心情や行動を読み取り、物語として面白さを味わう。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|--------|---|--------------|
| 教科名 | 国語 | 科目名 | 古典B | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | 必修・○選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 921円 | 副教材・実習費 | あり()円程度 ○なし |
| 受講をする上での注意 | 「国語総合」を履修済みであること。日本と中国の歴史に関心があり、国語総合等で学んだ文法事項をよく理解していること。 | | | | |
| 学習目標 | 古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | ・ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てることができる。 | | | ・ 学習活動における発言内容 ・ ノート、プリント、ワークシート ・ 定期考査等 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | ・ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠として的確にとらえる。さらにその内容について話し合ったり文章にまとめる。 | | | ・ 学習活動における発言内容 ・ ノート、プリント、ワークシート ・ 定期考査等 ・ レポート・感想文などの作成した文章 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・ 古典を読んで関心を持った事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする。 | | | ・ 学習活動への参加姿勢や態度 ・ ノート、プリント、ワークシート | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 間 | 1. 御伽草子「一寸法師」等を読んで、現代の絵本や古典を採り入れた漫画や映画などを通して、古典のつながりを理解し、古典への関心が深まるようにする。 2. 徒然草「今日はそのことをなさんと思へど」等の随筆を読み、古代人の感性を学ぶことで、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。 3. 「漁父之利」「朝三暮四」等の漢文を読み、故事成語として残る古典を学び、漢文の論理について関心を深める。 | | | |
| 前期期末 | | 4. 「絶句」「秋浦歌」等の漢詩を読むことで、近体詩の規則やリズムを学び、古代人の表現の豊かさを味わう。 5. 伊勢物語「あづま下り」等の歌物語を読むことで、和歌が物語の中でどのように効果的に使われているかを考え、さらに古代の生活の中で和歌の役割を考える。 6. 土佐日記「門出」等を読み、平安時代の人々の旅に対する思いと日記の性格を学び、現代の旅と日記を比較し、考え方を広げ深めていく。 | | | |
| 後期中間 | 期 末 | 7. 鴻門の会「范増のたくらみ」等の漢文の歴史書を読み、登場人物像の心情を読み取り、さらに『史記』の優れた文章表現を味わい、作者の主張を考える。 8. 枕草子「中納言参りたまひて」等の古文の随筆を読み、作者の鋭い感性や観察眼を味わう。 9. 百人一首から、日本の古典に影響を与えた和歌を学び、さらに実際に百人一首を楽しむことで日本の伝統を味わい関心を持つようにする。 | | | |
| 後期期末 | | 10. 大鏡「比べ弓」等の歴史物語を読み、史実と照らし合わせながら、歴史上の人物の心情と人物像を読み取っていく。 11. 源氏物語「桐壺」等を読み、登場人物の心情やストーリー展開の巧みさなどを考え、物語の面白さを味わう。また、源氏物語が後世に与えた影響などを調べ古典への関心を深めていく。 12. 「不死之薬」「先従隗始」等の漢文を読み、漢文独特の論理を読み取り、中国古代の考え方について学び、古典に対する理解や関心を深める。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|----------|---|--------------|
| 教科名 | 地理歴史 | 科目名 | 世界史A | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 選択必修履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 692円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・(な) |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、現代の諸課題を歴史的観点から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 近現代史を中心とする世界の歴史について、我が国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけているか。 諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用し、歴史的な事象を追究する方法を身に付けているか。 | | | 定期考査等・小テスト・授業の質問等を総合的にみて評価する。 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 近現代史を中心とする世界史の知識をもとに、人類の課題を世界史的視点に立って多面的・多角的に考察しようとしているか。 国際社会の変化を踏まえ公正に判断しているか。 追究し、考察した過程や結果を適切に表現しているか。 | | | 教科書や資料を参考にして、自分の考えや意見をまとめる活動などにより評価する。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 近現代史を中心とする世界の歴史に関心と問題意識を高めているか。 意欲的に追究しようとするとともに国際社会に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしているか。 | | | グループ学習、ディベートへの取り組みを通して自分の考え・意見を的確に表現することができるかを評価する。 | |
| 学期 | 学習内容・方法 (予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | ・自然環境、生活、宗教などに着目しながら、アジア、ヨーロッパで形成された諸文明の特質について学習します。 1 アジアの文明・アフリカの文明・ヨーロッパの文明・アメリカの文明 2 モンゴル帝国とその後の諸大国 3 大航海時代・ヨーロッパの絶対王政・アジアやアメリカに進出するヨーロッパ | | | |
| 前期期末 | 間 | ・市民革命と近代社会の成立、産業革命と資本主義社会の成立など、世界の一体化に向けての動きについて学習します。 1 アメリカ合衆国の独立・フランス革命とナポレオン・産業革命と資本主義の発達 2 1848年革命と民主主義の成長・大英帝国の発展・南北戦争とアメリカの成長 3 オスマン帝国の衰弱・ムガル帝国の滅亡・東南アジアの植民地化 4 日本の開国と成長・列強による中国分割と辛亥革命 | | | |
| 後期中間 | 期 | ・帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応について学習します。また、二つの世界大戦の原因と総力戦を考察し、平和の意義について学習します。 1 帝国主義と第1次世界大戦・ロシア革命・ヴェルサイユ体制と第1次大戦後の世界 2 中東やインドの民族運動・東アジアの民族運動 3 世界恐慌とニューディール・ファシズムの台頭・第2次世界大戦 | | | |
| 後期期末 | 末 | ・急速に市場経済がグローバル化し、地域紛争の頻発、環境や資源をめぐる問題など、地域社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について学習します。 1 冷戦の始まりと推移・アジアの独立と経済発展・中東戦争と第三世界 2 冷戦構造の変化・冷戦終結とテロリズム時代の始まり 3 グローバル化する世界・アメリカの孤立と中東情勢・日本を取り巻くアジアの情勢 4 世界史の学習を振り返る・地球的課題と将来の世界を考える | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|----------|---|-------------|
| 教科名 | 地理歴史 | 科目名 | 世界史B | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 選択必修履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 861円 | 副教材・実習費 | あり()円程度(な) |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 古代から現代にいたる世界の政治、経済、社会、文化、宗教、生活の各領域における歴史的な事象を理解し、基本的な知識を身につけているか。得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身につけているか。 | | | 定期考査等・小テスト・授業の質問等を総合的にみて評価する。 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 世界の歴史を、自然環境とのかかわりや地理的条件、日本の歴史と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。歴史的に形成された諸課題について、様々な理解、立場があることをふまえ、公正に判断しているか。課題についての考察や判断の過程や結果を、効果的な方法を選択して適切に表現しているか。 | | | 教科書や資料を参考にして、自分の考えや意見をまとめる活動などにより評価する。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 世界の歴史を学ぶ意義に気づき、世界史に対する関心を高め、主体的に学習に取り組んでいるか。世界が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく当事者としての自覚を持って考える態度を身につけているか。 | | | グループ学習、ディベートへの取り組みを通して自分の考え・意見を的確に表現することができているかを評価する。 | |
| 学期 | 学習内容・方法(予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 1. オリентと地中海世界 2. アジア・アメリカの古代文明 3. 内陸アジア・東アジア世界の形成 ・人類は自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎に築き上げられた諸文明と、地理的特性に触れながら地域世界の形成について学習します。 | | | |
| 前期期末 | 間 | 1. イスラーム世界 2. ヨーロッパ世界の形成と発展 3. 内陸アジア・東アジア世界の展開 ・海域及び内陸のネットワークを背景に諸地域世界の交流が活発化しました。その諸地域世界との交流によりイスラーム世界やヨーロッパ世界が形成された過程について学習します。 | | | |
| 後期中間 | 期 | 1. アジア諸地域の繁栄と動揺 2. 近代ヨーロッパ世界の形成と発展 3. アメリカ世界の成立・欧米における近代国民国家の発展 ・アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、主権国家体制と工業化が進みました。そして大西洋世界の進展により産業社会と国民国家の形成について学習します。 | | | |
| 後期期末 | 末 | 1. 帝国主義とアジアの民族運動 2. 二つの世界大戦 3. 冷戦と第三世界の独立・現在の世界 ・科学技術や生産力の発展は世界規模で一体化し、世界大戦や冷戦を経て世界は相互依存を強めました。市場のグローバル化、地域紛争、環境問題を招いた世界と日本の動向について学習します。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|----------|---|-------------------|
| 教科名 | 地理歴史 | 科目名 | 日本史A | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・ 半期 | 履修区分 | 選択必修履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 672円 | 副教材・実習費 | あり()円程度 な |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 近現代の日本の歴史に関する基礎的・基本的な知識を、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら、身に付けることができている。 また、近現代の歴史に関わる身の回りの社会的事象や資料を活用して探究する技能を身に付けている。 | | | 定期考査等・小テスト・授業の質問等を総合的にみて評価する。 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 近現代の歴史的な事象について、政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向などとの相互の関連を重視して考察し、適切にまとめたり発表したりできている。 また、現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察し、適切にまとめたり発表したりできている。 | | | 教科書や資料を参考にして、自分の考えや意見をまとめる活動などにより評価する。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 近現代の歴史的な事象と現在との結びつきを考える活動などを通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付くことができている。 また、自ら積極的に歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養うよう努力する姿がみられる。 | | | グループ学習、ディベートへの取り組みを通して自分の考え・意見を的確に表現することができるかを評価する。 | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 | 第1章 国際環境の変化と明治維新 (1) 19世紀世界の動向と日本 (2) 開国と倒幕 (3) 明治新政府の諸改革と社会の変化 (4) 明治初期の外交と反政府運動 | | | |
| 前期 期末 | 間 | 第2章 近代国家の成立と国際関係の推移 (1) 自由民権運動の展開 (2) 立憲体制の成立 (3) 日清戦争と国際関係 (4) 日露戦争前後の世界と日本 | | | |
| 後期 中間 | 期 | 第3章 両世界大戦をめぐる国際情勢と日本 (1) 帝国日本と第一次世界大戦 (2) 政党政治と大衆文化 (3) 軍国日本への道 (4) 太平洋戦争と日本 | | | |
| 後期 期末 | 末 | 第4章 現代世界と日本 (1) 現代世界の開幕と日本の戦後改革 (2) 米ソ二極構造の世界と国内の再編 (3) 高度経済成長の時代 (4) 低成長から経済大国へ | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|---------|---|--------------|
| 教科名 | 地理歴史 | 科目名 | 日本史B | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | 選択必履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 844円 | 副教材・実習費 | あり()円程度 ○なし |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解している。また、政治・経済・社会・文化などの諸要素と関連付けて理解しその知識を身につけている。 文化と伝統の特色に関する文献、絵画などの諸資料を活用することを通して、世界的視野に立って考察している。 | | | 定期考査等・小テスト・授業の質問等を総合的にみて評価する。 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 歴史の事象や歴史の構造に問題を見いだしたり、分析するなど総合的に考えて思考し、適切にそれを表現することができる。 日本の歴史の展開、文化と伝統の特色について課題を見いだすことで、国際的視野に立って多面的・多角的に考察している。 | | | 教科書や資料を参考にして、自分の考えや意見をまとめる活動などにより評価する。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 教科書や資料の内容を的確に理解して、歴史的背景や文化を明確に読み取ることができる。また、グループ学習等に進んで取り組んで日本史に対する探究活動が積極的に取り組む事ができている。 日本の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | | | グループ学習、ディベートへの取り組みを通して自分の考え・意見を的確に表現することができるかを評価する。 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 1. 古代社会の形成 2. 律令国家の形成 3. 貴族政治の展開 ・原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について国際環境を交えながら学びます。古代国家の形成や、荘園・公領の動き武士の台頭など文化と成立の背景を学びながら中世社会の萌芽を学習します。 | | | |
| 前期期末 | 間 | 1. 武家社会の形成 2. 武家社会の成長 ・武士の台頭による社会の形成と発展について学習します。日本の諸地域の動向、東アジア地域との関係、産業経済の発展、庶民の台頭など中世社会での多様な展開や文化的な特色を学びます。 | | | |
| 後期中間 | 期 | 1. 幕藩体制の成立 2. 幕藩体制の展開 3. 幕藩体制の動揺 ・幕藩体制下の農業や交通の発展、町民文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出など、近世の社会や人々の生活及び文化の特色などを学びます。また、幕藩体制の変容と近代化の基盤に向けた流れについて学習します。 | | | |
| 後期末 | 末 | 1. 近代国家の成立 2. 二つの世界大戦とアジア 3. 現代の世界と日本 ・国際社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目しながら、対外政策・戦時体制での日本の動向と第二次世界大戦との関わりについて学びます。また、資料を活用して探究する見方や考え方を身につけます。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|-------|---|----------|---|----------------|
| 教科名 | 地理歴史 | 科目名 | 地理A | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 選択必修履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 652円 | 副教材・実習費 | あり(1379)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | | 地図帳(予価1379円)も必要。(地図帳は地理Aと地理Bで1冊あればよい) | | | |
| 学習目標 | | 現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を育むとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 | | | |
| | | 評価の観点 | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | | 現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 また、学習した項目をまとめて地図や資料に関連付けることで、学習の幅を自ら広げ、世界の諸地域がもつ共通性や特異性や、多面的に考察することができる。 | | 定期考査等・小テスト・授業の質問等を総合的にみて評価する。 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | | 世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、周囲の生徒に分かりやすく資料を集約し、適切に発表することができる。 | | 教科書や資料を参考にして、自分の考えや意見をまとめる活動などにより評価する。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | 地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択・活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付け、追究した過程や結果を主体的に取り組み姿勢が身につけている。 グループワークにおいて周囲の意見に耳を傾けて、様々な意見を集約することができる。 | | グループ学習、ディベートへの取り組みを通して自分の考え・意見を的確に表現することができるかを評価する。 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 地球儀と地図 球体としての地球、時差と生活、地図の歴史、おもな図法などを学習する。 地形と私たちの暮らし 世界の大地形について、世界的な視野から学習する。また、河川が作る地形や海岸の地形、さまざまな小地形の特徴を学習する。 | | | |
| 前期期末 | 間 | 気候と私たちの暮らし 大気の大循環と気候の地域性、世界の気候区分、各気候帯・気候地域の自然環境の特色とそこで営まれる生産活動を世界的な視野から学習する。 | | | |
| 後期中間 | 期 | 経済・文化と私たちの暮らし 世界の農業・工業・第3次産業の発達と特色、経済活動のグローバル化、言語・民族と文化についての学習を通じて、経済と文化における地理的環境や歴史的背景の影響について理解する。 | | | |
| 後期期末 | 末 | 世界各地の生活・文化 世界の諸地域に関し、自然環境と生活、歴史と民族、産業と発展の学習を通じて、今後の課題について認識を深め、これからの日本との関係について考察する。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|----------|---|----------------|
| 教科名 | 地理歴史 | 科目名 | 地理B | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 選択必修履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 799円 | 副教材・実習費 | あり(1379)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 地図帳(予価1379円)も必要。(地図帳は地理Aと地理Bで1冊あればよい) | | | | |
| 学習目標 | 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を育むとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 世界の地理的諸事象や諸地域の特色、現代世界の諸課題などについての基礎的・基本的な知識を身に付けている。 また、様々な地図の活用方法や読図方法など、基礎的・基本的な地理的スキルを身に付けている。 | | | 定期考査等・小テスト・授業の質問等を総合的にみて評価する。 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 世界の様々な地理的諸事象の空間的な規則性・傾向性やそれらの要因などを系統地理的に考察し、現代世界の諸課題を地球的視野から理解することができている。 また、現代世界の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解するとともに、現代世界を地誌的に考察し、その結果を適切に表現することができている。 | | | 教科書や資料を参考にして、自分の考えや意見をまとめる活動などにより評価する。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 地球儀や様々な地図の活用及び地域調査などの作業的・体験的な活動に関して、資料の収集・処理や発表などに当たって、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用するとともに、その適正さ・公正さを主体的に取捨選択し、活用することができている。 | | | グループ学習、ディベートへの取り組みを通して自分の考え・意見を的確に表現することができているかを評価する。 | |
| 学期 | 学習内容・方法(予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 1 さまざまな地図と地理的スキル 地図帳の活用を通して、現代世界の地理的事象をとらえるスキルを身につける。山や川の成り立ち、地域により異なる気候などわたしたちを取りまく自然環境の特徴を学習する。 | | | |
| 前期期末 | 間 | 2 現代世界の系統地理的考察 現代世界の地理的諸課題を、資源、人口、生活文化など項目別に取り上げ学習する。統計資料や図版を読み取るスキルなどを身につける。 | | | |
| 後期中間 | 期 | 3 現代世界の地誌的考察 (1) 現代世界の地域区分 (2) 現代世界の諸地域 学習した現代世界の系統的特徴を地域的なわく組みから学習する。視聴覚教材により世界の諸地域の特色を視覚的に学習する。 | | | |
| 後期期末 | 末 | (3) 現代世界と日本 現代世界における日本の国土の特色と課題を考える。そして、問題解決の方向性や、将来の国土のあり方について考える。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|--------|--|---------------|
| 教科名 | 公民 | 科目名 | 倫理 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・(半期) | 履修区分 | 選択必修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 473円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・(なし) |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 先哲の考えを学び、さまざまな考え方やあり方を理解する。 人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深め、人格の形成に努める実践的意欲を高め、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「小テスト」「定期考査」などを実施し、A・B・Cの3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」「定期考査」などを実施しA・B・Cの3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。 | | | 「学習活動への取り組み」「課題・提出物の状況」「ノート・プリント」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 学期 | 学習内容・方法 (予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 人間としての自覚 ■人間とは何か ■古代ギリシアの思想 ～ソクラテス・プラトン・アリストテレス～ ■キリスト教の思想 ～古代ユダヤ教とイエスの教え～ | | | |
| 前期期末 | 間 | ■イスラームの思想 ～ムハンマドの生涯とイスラム教の展開～ ■仏教の思想 ～古代インドの哲学と仏陀の教え、仏教の展開～ ■中国の思想 ～孔孟思想と老荘思想を中心に～ | | | |
| 後期中間 | 期 | 国際社会に生きる日本人の自覚 ■日本人の精神風土 ～日本人の宗教観、倫理観、芸術観～ ■仏教と日本人の思想形成 ～聖徳太子、奈良・平安仏教、鎌倉仏教～ ■江戸期の思想 ～朱子学、古学、国学、心学～ | | | |
| 後期期末 | 末 | 現代を生きる人間の倫理 ■合理主義とヒューマニズム ～ルネサンスと宗教改革～ ■市民社会の倫理 ～社会契約説、カントとヘーゲル～ ■現代社会の倫理と課題 ～現代の思想家・哲学者たち～ | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|--|--------|---|--------------|
| 教科名 | 公民 | 科目名 | 現代社会 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | ○通年・○半期 | 履修区分 | 選択必修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 641円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・○なし |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | <p>現代社会において、他者との違いを尊重し、それぞれ自分らしく生き、自己の目的を実現できるよう多様な人の考え方、生き方、社会のしくみを学習する。</p> <p>人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題に対する判断力の基礎を培う。また、自ら人間としての在り方生き方について考える力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。</p> | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <p>現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。</p> | | | <p>知識・技能を問う「単元テスト」「小テスト」「定期考査」などを実施し、A・B・Cの3段階で評価</p> | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <p>現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p> | | | <p>思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」「定期考査」などを実施しA・B・Cの3段階で評価</p> | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <p>現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。</p> | | | <p>「学習活動への取り組み」「課題・提出物の状況」「ノート・プリント」などを基にA・B・Cの3段階で評価</p> | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | <p>第1編 私たちの生きる社会</p> <p>第1章 地球環境問題</p> <p>第2章 資源・エネルギー問題</p> <p>第3章 生命をめぐる問題</p> <p>第4章 情報をめぐる問題</p> <p>・私たちが生きている現代社会の自然環境や科学技術の発達について学習する。</p> | | | |
| 前期期末 | 間 | <p>第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方</p> <p>第1章 青年期と自己の形成</p> <p>第2章 現代の民主政治と政治参加の意義</p> <p>・現代に生きる青年期の諸特徴と現代社会の政治的なしくみを学習する。</p> | | | |
| 後期中間 | 期 | <p>第3章 現代の経済社会と経済活動のあり方</p> <p>・現代社会の経済的な特徴や経済のしくみについて学習する。</p> | | | |
| 後期期末 | 末 | <p>第4章 国際社会の動向と日本の役割</p> <p>第3編 とともに生きる社会をめざして</p> <p>・国際社会の現状を学ぶとともに、課題を設定し課題探究学習をおこなう。</p> | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|--|--------|--|---------------|
| 教科名 | 公民 | 科目名 | 政治経済 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 選択必修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 473円 | 副教材・実習費 | あり()円程度 (なし) |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともにそれらに関する諸課題について考察し、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 現代の社会的事象と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「小テスト」「定期考査」などを実施し、A・B・Cの3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」「定期考査」などを実施しA・B・Cの3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。 | | | 「学習活動への取り組み」「課題・提出物の状況」「ノート・プリント」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 学期 | 学習内容・方法 (予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 現代の政治 ―民主政治の基本原則と日本国憲法― ■民主政治の基本原則について歴史的な観点から学習します。 ■世界の政治体制、日本の国会・内閣・裁判所、地方自治について学習します。 ■日本の選挙制度について学習します。 | | | |
| 前期期末 | 間 | 現代の政治 ―現代の国際政治と日本の役割― ■戦後の国際政治の変遷、国際法や国際組織の機能などについて学習します。 ■国際政治の動向や特徴について学習します。 | | | |
| 後期中間 | 期 | 現代の経済 ―現代経済のしくみと特質― ■資本主義経済と社会主義経済について学習します。 ■市場メカニズム、金融のしくみ、税の意義や財政の役割について学習します。 ■戦後の日本経済のあゆみや現在直面している課題について学習します。 ■労働者の権利、労働環境の変化、社会保障制度について学習します。 | | | |
| 後期期末 | 末 | 現代の経済 ―国民経済と国際経済― ■貿易や国際経済のしくみ、戦後の国際経済の変遷などについて学習します。 現代社会の諸課題 (選択学習) ■現代社会の諸課題について考察しながら学習します。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|--------|---|--------------|
| 教科名 | 数学 | 科目名 | 数学 I | 単位数 | 3 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | ○必修・選択 | 履修年次 | 1 年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 733円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・○なし |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | <p>数と式, 図形と計量, 2 次関数及びデータの分析について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を身に付ける。</p> <p>事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を身に付ける。</p> | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <p>数と式, 2 次関数, 図形と計量, 集合と命題及びデータの分析において, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。</p> <p>数と式, 2 次関数, 図形と計量, 集合と命題及びデータの分析における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている。</p> | | | <p>知識・技能を問う「単元テスト」「小テスト」「定期考査」などを基にA・B・Cの3段階で評価</p> | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <p>数と式, 2 次関数, 図形と計量, 集合と命題及びデータの分析において, 事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 数学的な見方や考え方を身に付けている。</p> | | | <p>思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」「定期考査」などを基にA・B・Cの3段階で評価</p> | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <p>数と式, 2 次関数, 図形と計量, 集合と命題及びデータの分析における考え方に興味をもつとともに, 数学のよさを認識し, それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。</p> | | | <p>「学習活動への取り組み」「課題・提出物の状況」「ノート・プリント」などを基にA・B・Cの3段階で評価</p> | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | <p>【 第1章 数と式 】</p> <p>第1節 数と式の計算 多項式の加法・減法・乗法・展開公式, 因数分解, 根号を含む式の計算</p> <p>第2節 1次不等式 不等式の性質をもとに, 1次不等式の解を求める。</p> | | | |
| 前期期末 | 間 | <p>【 第2章 2次関数 】</p> <p>第1節 2次関数のグラフ 2次関数のグラフの特徴について理解する。</p> <p>第2節 2次関数の値の変化 2次関数の値の変化についてグラフを用いて考察する。</p> | | | |
| 後期中間 | 期 | <p>【 第3章 図形と計量 】</p> <p>第1節 三角比 三角比の意味と相互関係について理解する。</p> <p>第2節 三角形への応用 正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求める。</p> | | | |
| 後期末 | 末 | <p>【 第4章 集合と命題 】 命題と集合を理解し論理的な思考能力を高める。</p> <p>【 第5章 データの分析 】 データを整理し, 各種の代表値, さらにデータの散らばり・相関を学ぶ。</p> | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|--------|---|--------------|
| 教科名 | 数学 | 科目名 | 数学Ⅱ | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | 必修・○選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 788円 | 副教材・実習費 | あり()円程度 ○なし |
| 受講をする上での注意 | 「数学Ⅰ」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解して、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指し、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を身に付ける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 | | | 「授業中の発言」「授業へのぞむ態度」「自己評価」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | 【 第1章 複素数と方程式 】 第1節 式の計算 第2節 複素数と方程式 第3節 式と証明 | | | |
| 前期 期末 | | 【 第2章 図形と方程式 】 第1節 点と直線 第2節 円 | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | 【 第3章 三角関数 】 | | | |
| 後期 期末 | | 【 第4章 指数関数・対数関数 】 第1節 指数関数 第2節 対数関数 | | | |
| | | 【 第5章 微分法と積分法 】 第1節 微分法 第2節 積分法 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|--------|---|--------------|
| 教科名 | 数学 | 科目名 | 数学Ⅲ | 単位数 | 5 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | 必修・○選択 | 履修年次 | 3年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★★ | 教科書代金(予定) | 809円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・○なし |
| 受講をする上での注意 | 「数学Ⅱ」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深めて、知識の習得と技能の習熟を目指し、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を身に付ける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。 平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身に付けている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断できる。 | | | 「授業中の発言」「授業へのぞむ態度」「自己評価」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 間 | 【 第1章 複素平面 】 【 第2章 式と曲線 】 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標 | | | |
| 前期期末 | | 【 第3章 関数 】 【 第4章 極限 】 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限 | | | |
| 後期中間 | 期 | 【 第5章 微分法 】 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数 【 第6章 微分法の応用 】 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用 | | | |
| 後期末 | | 【 第7章 積分法とその応用 】 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|-------|---|-------------|
| 教科名 | 数学 | 科目名 | 数学A | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修・選択 | 履修年次 | 1年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 596円 | 副教材・実習費 | あり()円程度 なし |
| 受講をする上での注意 | 「数学Ⅰ」を履修した後、または、「数学Ⅰ」と並行して履修できる。 | | | | |
| 学習目標 | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解して、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指し、事象を数学的に考察する能力を養うことで、数学のよさを認識するとともに、それらを活用する態度を身に付ける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 | | | 「授業中の発言」「授業へのぞむ態度」「自己評価」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | 【第1章 場合の数と確率】 第1節 順列・組合せ 1. 集合 2. 集合の要素の個数 3. 和の法則・積の法則 4. 順列 5. 組合せ | | | |
| 前期 期末 | | 第2節 確率 1. 事象と確率 2. 確率の計算 3. 独立な試行と確率 4. 条件付き確率 | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | 【第2章 図形の性質】 第1節 平面図形 1. 図形の基本 2. 角の二等分線と線分の比 3. 三角形の外心、内心、重心 4. 円周角の定理 5. 円に内接する四角形 6. 円の接線 7. 方べきの定理 8. 2つの円 9. 作図 | | | |
| 後期 期末 | | 第2節 空間図形 1. 空間の直線、平面 2. 正多面体 ※教科書は3章構成になっているが「場合の数と確率」、「図形の性質」の2分野を授業で扱う。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|--------|---|--------------|
| 教科名 | 数学 | 科目名 | 数学B | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年(半期) | 履修区分 | 必修(選択) | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 763円 | 副教材・実習費 | あり()円程度(なし) |
| 受講をする上での注意 | 進学希望者向け。「数学I」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指し，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を身に付ける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。 ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測における数学的な見方や考え方を身に付けている。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断できる。 | | | 「授業中の発言」「授業へのぞむ態度」「自己評価」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 間 | 【第1章 ベクトル】 第1節 平面上のベクトル | | | |
| 前期期末 | | 第2節 空間のベクトル | | | |
| 後期中間 | 期 末 | 【第2章 数列】 第1節 数列とその和 | | | |
| 後期期末 | | 第2節 漸化式と数学的帰納法 ※教科書は3章構成になっているが「ベクトル」，「数列」の2分野を授業で扱う。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|-------|---|-------------|
| 教科名 | 数学 | 科目名 | 数学活用 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 560円 | 副教材・実習費 | あり()円程度(な) |
| 受講をする上での注意 | 「数学Ⅰ」と並行して履修できる。 | | | | |
| 学習目標 | 数学と人間とのかかわりや数学の社会的有用性についての認識を深めるとともに、事象を数理的に考察する能力を養い、数学を積極的に活用する態度を身に付ける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 「身の回りの数学」に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 「身の回りの数学」について事象を数量や図形を用いて適切に処理できる。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 「身の回りの数学」におけるいろいろな事象について、数学的にとらえて論理的に考察したり、表現できる。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 「身の回りの数学」に関する数理的な諸概念に興味・関心をもち、それらを意欲的に探究するとともに、数学を活用できる。 | | | 「授業中の発言」「授業へのぞむ態度」「自己評価」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 間 | 【 第1章 数学と人間活動 】 第1節 いろいろな場合の数 第2節 身の回りの図形 第3節 数学的なくふう | | | |
| 前期期末 | | 【 第2章 社会生活と数学 】 第1節 経済と数学 第2節 測定と数字 | | | |
| 後期中間 | 期 末 | 第3節 コンピューターと人間活動 【 第3章 数学の発見と人間の活動 】 第1節 数と人間 | | | |
| 後期期末 | | 第2節 図形と人間 第3節 数学と文化 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|-------|---|------------|
| 教科名 | 数学 | 科目名 | 実践数学 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修・選択 | 履修年次 | 3年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | なし | 副教材・実習費 | あり()円程度 な |
| 受講をする上での注意 | 3年次以上の就職希望者向け。「数学Ⅰ」を履修した後、または、「数学Ⅰ」と並行して履修できる。 | | | | |
| 学習目標 | <p>数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を理解できるようにし、数学的に解釈したり数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、確率において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、確率において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、確率における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 | | | 「授業中の発言」「授業へのぞむ態度」「自己評価」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 【 いろいろな計算 】 数と式、根号を含む式の計算、方程式、不等式、場合の数、確率の計算、順列・組合せ | | | |
| 前期期末 | 間 | 【 関数とグラフ 】 関数とグラフ、関数と方程式、関数と不等式 | | | |
| 後期中間 | 期 | 【 図形 】 三角比 平面図形の性質 立体図形の性質 空間図形の性質 | | | |
| 後期期末 | 末 | 【 課題学習 】 実用的な内容について学習します | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|----------|---|--------------|
| 教科名 | 数学 | 科目名 | 数学Ⅱ【発展】 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年(半期) | 履修区分 | 必修(選択) | 履修年次 | 3年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★★ | 教科書代金(予定) | 数学Ⅱで購入済み | 副教材・実習費 | あり()円程度(なし) |
| 受講をする上での注意 | 大学進学者向け。「数学Ⅱ」を修得済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | <p>いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指し，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を身に付ける。</p> | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <p>いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。</p> | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <p>いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。</p> | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <p>いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に興味をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。</p> | | | 「授業中の発言」「授業へのぞむ態度」「自己評価」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 学期 | 学習内容・方法(予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅰ，数学Ⅱを総合した数学的知識，技術の確認を行う。 ・文章問題，融合問題を通して問題に対する数学的考察に取り組む。 | | | |
| 前期 期末 | | | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学，短大や専門学校等の入試問題を教材として，問題の数学的考察と基礎・基本の再確認を通して，問題に対する数学的処理の能力向上に取り組む。 | | | |
| 後期 期末 | | | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|----------|--|-------------|
| 教科名 | 理科 | 科目名 | 科学と人間生活 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 選択必修履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 692円 | 副教材・実習費 | あり()円程度(な) |
| 受講をする上での注意 | 日常生活における科学技術や、身近な自然現象への興味・関心を持っていることが大切。 | | | | |
| 学習目標 | 日常生活と社会の中にある事柄の理科全般(物理・化学・生物・地学)との関連について理解を深め、実験や観察を通して科学的に探究する力を養う。 科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。 科学技術への関心を高め、科学的に探究する能力と態度を育むとともに、科学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 生命の科学・物質の科学・光や熱の科学・宇宙や地球の科学において、日常生活と自然及び科学技術との関連について理解している。 生命の科学・物質の科学・光や熱の科学・宇宙や地球の科学において、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身につけている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 生命の科学・物質の科学・光や熱の科学・宇宙や地球の科学において、日常生活と関連のある自然の事柄や現象の中に問題を見出し、観察・実験・調査などを通して科学的に探究することにより、総合的に判断し、それを表現できる。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 生命の科学・物質の科学・光や熱の科学・宇宙や地球の科学において、自然の事柄や現象に積極的に関わり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 生命の科学・物質の科学・光や熱の科学・宇宙や地球の科学において、自然の事柄や現象に興味・関心を高めている。 | | | 「学習活動への取り組み」「課題・提出物の状況」などを基に3段階で評価 | |
| 学期 | 学習内容・方法(予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 1編 生命の科学 ※1章と2章のいずれかを選択して学ぶ。 1章 生物と光 ①植物の生育と光 ②光シグナルと生物 ③ヒトの視覚と光 2章 微生物とその利用 ①さまざまな微生物 ②微生物と人間生活のかかわり | | | |
| 前期期末 | 間 | 2編 物質の科学 ※1章と2章のいずれかを選択して学ぶ。 1章 材料とその再利用 ①金属 ②プラスチック ③資源の再利用 2章 衣料と食品 ①衣料 ②食品 | | | |
| 後期中間 | 期 | 3編 光や熱の科学 ※1章と2章のいずれかを選択して学ぶ。 1章 光の性質とその利用 ①目に見える光の世界 ②光の進み方とその基本的性質 ③見えない光とその応用 2章 熱の性質とその利用 ①熱とは何か ②熱と人間生活 | | | |
| 後期期末 | 末 | 4編 宇宙や地球の科学 ※1章と2章のいずれかを選択して学ぶ。 1章 身近な天体と太陽系における地球 ①天体が刻む「時」 ②太陽系の構造 ③太陽が動かす大気と水 2章 身近な自然景観と自然災害 ①身のまわりの景観の成り立ち ②自然災害と人間 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|---------|--|---------------|
| 教科名 | 理科 | 科目名 | 物理基礎 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・(半期) | 履修区分 | 選択必履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 773円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・(なし) |
| 受講をする上での注意 | 履修条件は特になし。計算等が多いので、数学が得意な人に向いています。 | | | | |
| 学習目標 | 1. 物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。 2. 目的意識をもって観察・実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を身につける。 3. 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。 4. 科学技術の在り方やエネルギー問題について、主体的に考えるために必要な科学的な知識、能力、態度を身につける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 物体の運動とエネルギー、さまざまな物理現象とエネルギーにおいて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 物体の運動とエネルギー、さまざまな物理現象とエネルギーにおいて、観察や実験を行い、結果を的確に記録・整理し、科学的に探究する技能の基礎を身につけている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 物体の運動とエネルギー、さまざまな物理現象とエネルギーにおいて、自然の事物・現象の中に問題をみだし、観察・実験・調査などを通して科学的に探究することにより、総合的に判断し、それを表現できる。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 物体の運動とエネルギー、さまざまな物理現象とエネルギーにおいて、日常生活や社会との関連について関心をもち、意欲的に探究しようとする。 | | | 「学習活動への取り組み」「課題・提出物の状況」などを基に3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界 速さ/速度/等速直線運動/合成速度・相対速度(1方向)/加速度/等加速度直線運動/自由落下/鉛直投射/放物運動(落下運動の見方) 2章 力と運動の法則 力/つり合い/力の合成・分解(2力)/作用・反作用の法則/慣性の法則/力と質量と運動の関係/摩擦力/抵抗力/浮力 | | | |
| 前期期末 | 間 | 3章 日常に潜む力 仕事/仕事の原理と仕事率/運動エネルギー/重力による位置エネルギー/弾性力による位置エネルギー/力学的エネルギーの保存/色々な運動でみる力学的エネルギー 2編 1章 熱 熱と温度/物質の三態/熱の移動と保存/熱と仕事/熱効率と不可逆変化 | | | |
| 後期中間 | 期 | 2章 波 いろいろな波/波の伝わり方/波を表す/波の重ね合わせ/定常波/波の反射/音の伝わり方/振動する弦/振動する気柱 3章 電気 動かない電気、動く電気/電流と電気抵抗/直列接続と並列接続/電力と電力量/電流がつくる磁場/発電機のしくみ/直流と交流/電磁波 | | | |
| 後期期末 | 末 | 4章 エネルギー エネルギーの変換と保存/エネルギーの利用/放射線の利用/原子力の利用 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|---------|--|-------------|
| 教科名 | 理科 | 科目名 | 化学基礎 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年 半期 | 履修区分 | 選択必履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 768円 | 副教材・実習費 | あり()円程度 なし |
| 受講をする上での注意 | 特にないが、化学反応や元素記号など、化学分野への興味関心を持っていることが望ましい。 | | | | |
| 学習目標 | (1)日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。 (2)主体的に観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育む。 (3)化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 物質の状態や化学法則、化学反応の基本的概念や原理法則を理解し知識を身につけている。また、観察・実験等の基本的操作を習得すると共に過程や結果を記録・整理し、科学的に探究する技能を身につけている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 化学実験の観察や得られたデータを分析して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 化学反応や物質の変化に対する幅広い関心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとすると共に、科学的な態度を身につけている。 | | | 「学習活動への取り組み」「課題・提出物の状況」などを基に3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | 序編 化学と人間生活 ・文明は金属とともに ・銅, 鉄, アルミニウム, セラミック, プラスチック, 繊維 | | | |
| 前期 期末 | | 序編 化学と人間生活 ・食料の確保, 食料の保存 ・洗剤 1編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素 2章 原子の構造と元素の周期表 | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | 1編 物質の構成 3章 化学結合 2編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 | | | |
| 後期 期末 | | 2編 物質の変化 2章 酸と塩基 3章 酸化還元反応 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|--|---------|--|---------------|
| 教科名 | 理科 | 科目名 | 生物基礎 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 選択必履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 881円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・(なし) |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心をもち、生物学的に探究する能力と態度を育むとともに、生物学の基本的な概念や原理法則を理解しながら、科学的な見方や考え方を深める。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 自然の事象・現象について基本的概念や原理法則を理解し知識を身につけている。また、観察・実験等の基本的操作を習得すると共に過程や結果を記録・整理し、科学的に探究する技能を身につけている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 自然の事象・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通じて、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 自然の事象・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとすると共に、科学的な態度を身につけている。 | | | 「学習活動への取り組み」「課題・提出物の状況」などを基に3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | 第1章 生物の特徴 第1節 生物にみられる多様性と共通性 第2節 細胞とエネルギー 第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子とDNA 第2節 遺伝子の働き | | | |
| 前期 期末 | | 第3章 生物の体内環境 第1節 体液とその働き 第2節 体内環境を維持するしくみ 第3節 生体防御 | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | 第4章 植生の多様性と分布 第1節 植生と遷移 第2節 気候とバイオーム | | | |
| 後期 期末 | | 第5章 生態系とその保全 第1節 生態系と物質循環 第2節 生態系のバランスと保全 | | | |

| | | | | | |
|---------------|-------|--|----------|--|-------------|
| 教科名 | 理科 | 科目名 | 地学基礎 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 選択必修履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 891円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | | 特になし | | | |
| 学習目標 | | (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 | | | |
| | | 評価の観点 | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | | <ul style="list-style-type: none"> 惑星としての地球やその内部構造と内部における活動、それに伴う諸現象について理解することができる。 地球表面の構造とそこにおける諸現象地球の姿について、観察、実験などを通して探究し、惑星としての地球、活動する地球、大気と海洋について、理解することができる。 宇宙の誕生、太陽系の誕生と生命を生み出す条件を備えた地球の特徴とその歴史を理解することができる。 地球規模の環境の変化とその仕組みを理解することができる。 | | 知識・技能を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | | <ul style="list-style-type: none"> 惑星としての地球やその内部構造と内部における活動、それに伴う諸現象について相互の関連性を見いだすことができる。 地球のすがたについて、観察、実験などを通して探究し、惑星としての地球、活動する地球、大気と海洋について、規則性や関係性を見いだして表現することができる。 宇宙の誕生、太陽系の誕生と生命を生み出す条件を備えた地球の特徴とその歴史から規則性や関係性を見いだして表現することができる。 地球規模の自然環境に関する資料に基づいて、地球環境の変化を見いだしてその仕組みを理解し、それらの現象と人間生活との関わりについて認識することができる。 | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | <ul style="list-style-type: none"> 科学的に探究する力を高めようと積極的に取り組むことができる。 観察、実験などの探究の過程を踏まえた学習活動のなかで、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得することができる。 報告書などを作成したり、発表を行うことができる。 | | 「学習活動への取り組み」「課題・提出物の状況」などを基に3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 第1編 私たちの宇宙の進化 1章 宇宙の構造と進化 ○ビッグバンと宇宙の進化 ○天体の誕生 など 2章 太陽と惑星 ○太陽系の誕生と一生 ○地球の誕生と月の誕生 など | | | |
| 前期期末 | 間 | 第2編 私たちの地球の歴史と生命の歴史 1章 生命の歴史 ○原始地球の誕生 ○地質時代の生命の進化 など 2章 岩石の観察 地層の観察 ○地層のつくられ方 ○さまざまな岩石の世界 など | | | |
| 後期中間 | 期 | 第3編 私たちの地球 1章 大地とその動き 2章 地震 3章 火山 4章 大気と海洋 | | | |
| 後期期末 | 末 | 第4編 私たちの地球のこれから 1章 地球環境の考え方 2章 自然環境の変動 3章 日本の自然環境 4章 これからの地球環境 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|-------|--|-------------|
| 教科名 | 理科 | 科目名 | 物理 | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★★ | 教科書代金(予定) | 1114円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 大学進学者向け。「物理基礎」を履修済みであること。 (「数学Ⅱ」, 「数学B」を履修済みであることが望ましい。) | | | | |
| 学習目標 | 1. 物理的な事物・現象に対する探究心を高める。 2. 目的意識をもって観察・実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を身につける。 3. 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。 4. 科学技術の在り方やエネルギー問題について考えるための、科学的な知識、能力、態度を身につける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 力と運動, 熱, 波, 電気と磁気, 原子において, 基本的な概念や原理・法則を理解し, 知識を身につけている。 力と運動, 熱, 波, 電気と磁気, 原子において, 観察や実験を行い, 結果を的確に記録・整理し, 物理学的に探究する技能を身につけている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 力と運動, 熱, 波, 電気と磁気, 原子において, 自然の事物・現象の中に問題をみだし, 観察・実験・調査などを通して物理学的に探究することにより, 総合的に判断し, それを表現できる。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 力と運動, 熱, 波, 電気と磁気, 原子において, 自然の物理的な事物・現象について関心をもち, 意欲的に探究しようとする科学的態度を身につけている。 | | | 「学習活動への取り組み」「課題・提出物の状況」などを基に3段階で評価 | |
| 学期 | 学習内容・方法 (予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 間 | 1編 力と運動 1章 剛体にはたらく力のつり合い 2章 さまざまな運動①～平面上の運動と放物運動～ 3章 さまざまな運動②～円運動と万有引力～ 4章 さまざまな運動③～単振動～ 5章 運動量 | | | |
| 前期期末 | | 第2編 熱 1章 気体分子の運動と圧力 2章 気体の状態変化 第3編 波 1章 波の性質 2章 音 3章 光 | | | |
| 後期中間 | 期 末 | 第4編 電気と磁気 1章 電界と電位 2章 電流 3章 電流と磁界 4章 電磁誘導と電磁波 | | | |
| 後期期末 | | 第5編 原子 1章 電子と光 2章 原子と原子核 終章 物理学が築く未来 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|--|--------|--|--------------|
| 教科名 | 理科 | 科目名 | 化学 | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | 必修・○選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★★ | 教科書代金(予定) | 1114円 | 副教材・実習費 | あり()円程度 ○なし |
| 受講をする上での注意 | 大学進学者向け。「化学基礎」を履修済みであること。計算(指数・対数)があるので「数学Ⅱ」を履修していることが望ましい。 | | | | |
| 学習目標 | (1)学習を通じて化学的な自然観や倫理観を養い、化学と事象との関連性について深く理解し、考察する力を身に付ける。 (2)安全な薬品の取り扱いや、正しい実験操作・観察方法を実践し、化学的に探究する能力を養う。 (3)化学的に探究する態度を育むことにより、研究者として求められる素養を身に付ける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 物質の状態や化学法則、化学反応の基本的概念や原理法則を理解し知識を身につけている。また、観察・実験等の基本的操作を習得すると共に過程や結果を記録・整理し、科学的に探究する技能を身につけている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 化学実験の観察や得られたデータを分析して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 化学反応や物質の変化に対する幅広い関心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとすると共に、科学的な態度を身につけている。 | | | 「学習活動への取り組み」「課題・提出物の状況」などを基に3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 | 1編 物質の状態 1章 物質の状態 2章 気体の性質 3章 溶液の性質 4章 化学結合と固体の構造 | | | |
| 前期 期末 | 間 | 2編 化学反応のエネルギー 1章 化学反応と熱・光 2章 電池と電気分解 3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ 2章 化学平衡 3章 水溶液中の化学平衡 | | | |
| 後期 中間 | 期 | 4編 無機物質 1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物 3章 典型金属元素の単体と化合物 4章 遷移元素の単体と化合物 5章 無機物質と人間生活 5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭化水素 | | | |
| 後期 期末 | 末 | 5編 有機化合物 3章 アルコールと関連化合物 4章 芳香族化合物 5章 有機化合物と人間生活 6編 合成高分子化合物 1章 天然高分子化合物 2章 合成高分子化合物 3章 高分子化合物と人間生活 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|--------|--|--------------|
| 教科名 | 理科 | 科目名 | 生物 | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | 必修 ○選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 1267円 | 副教材・実習費 | あり()円程度 ○なし |
| 受講をする上での注意 | 大学進学者向け。「生物基礎」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 生物や生物現象に対する探究心を深め、目的意識を持って学び、生物学的に探究する能力と態度を身につけると共に、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 自然の事象・現象について基本的概念や原理法則を理解し知識を身につけている。また、観察・実験等の基本的操作を習得すると共に過程や結果を記録・整理し、科学的に探究する技能を身につけている。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 自然の事象・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通じて、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 自然の事象・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとすると共に、科学的な態度を身につけている。 | | | 「学習活動への取り組み」「課題・提出物の状況」などを基に3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | 第1部 生命現象と物質 第1章 生命と物質 第2章 代謝 第3章 遺伝現象と物質 | | | |
| 前期 期末 | | 第2部 生殖と発生 第1章 有性生殖 第2章 動物の生殖と発生 第3章 植物の生殖と発生 | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | 第3部 生物の環境応答 第1章 生物の反応と行動 第2章 植物の環境応答 | | | |
| 後期 期末 | | 第4部 生物の進化と系統 第5部 生態と環境 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|--------|--|-------------|
| 教科名 | 理科 | 科目名 | 地学 | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | 必修・○選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 1283円 | 副教材・実習費 | あり()円程度(○) |
| 受講をする上での注意 | 「地学基礎」履修済みのこと。進学者向けというより地学をもっと学びたい者向け。 | | | | |
| 学習目標 | (1) 地学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 (2) 観察、実験などを通して、科学的に探究する力を養う。 (3) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 地球の形状や内部構造について概観できる。 地球の活動と歴史について理解できる。 地球の大気と海洋の構造と活動について理解できる。 宇宙の構造や天体の運動について理解できる。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> 宇宙に関する事象・現象について、観察、実験などを通して探究し、天体の運動や宇宙の構造を見いだして表現することができる。 地球の形状や内部構造について、観察、実験などを通して探究し、地球の形状や内部構造の特徴について規則性や関係性を見いだして的確に表現することができる。 大気、海洋、大陸及び古生物などの変遷に関する資料に基づいて、地球環境の移り変わりを深く考察し総合的に理解し表現することができる。 地球の大気と海洋について、観察、実験などを通して探究し、地球の大気と海洋の構造や運動の仕組みを深く理解し、規則性や関係性を見いだして表現することができる。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「定期考査」や「観察・実験」の実習などを基に3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 科学的に探究する力を高めようと積極的に取り組むことができる。 観察、実験などの探究の過程を踏まえた学習活動のなかで、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法をより主体的に習得することができる。 報告書などを作成したり、発表を行うことで深い学びができる。 | | | 「学習活動への取り組み」「課題・提出物の状況」などを基に3段階で評価 | |
| 学期 | 学習内容・方法(予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 第1部 まるごと地球のつかみ方 ～生きている地球をさぐる～ 地球の形の求め方からはじまり、地球磁石の性質、地球内部をつくる岩石・鉱物、地震波へと進み、地球を調べていく。有名なプレートテクトニクス理論をもとに、地震と火山の学習を行う。 第1章 地球をおおづかみする学習 第2章 プレートテクトニクスの学習 第3章 生きている地球の活動 地震と火山 | | | |
| 前期期末 | 間 | 第2部 地球46億年の歴史のつかみ方 ～地層を読むと歴史が読める～ 46億年の地球の歴史を学習する。水の運搬によりつくられた地層の観察の仕方を学び、地質図の読み方、使い方を発展学習する。「地球大進化」の集中学習である。 第1章 地表の変化と地層 第2章 地球・生命・環境の歴史 第3章 私たちの日本列島 | | | |
| 後期中間 | 期 | 第3部 地球の大気と海 ～大気と水に包まれた青い地球～ 気象の分野の学習であり、地球規模の大気の循環運動も扱う。また、地球規模の海水の運動も扱い、地球環境との関係をしらべる。 第1章 大気の構造 第2章 大気の運動 第3章 海洋と海水の運動 第4章 気候変動と地球環境 | | | |
| 後期期末 | 末 | 第4部 宇宙のすがたのつかみ方 ～宇宙は膨張している～ 太陽系の惑星探査の新時代に、あらためて太陽系を学びなおす。星の世界、さらに銀河の世界へと、「宇宙の地図」を広げていく。宇宙の見方の歴史も考える。 第1章 生命を生み育てた私たちの太陽系のなりたち 第2章 きらめく恒星の世界 第3章 銀河系と宇宙 ～はるかなる時間と空間の旅へ～ | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|----------|---|--------------|
| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 体育② | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・(半期) | 履修区分 | 選択必修履修科目 | 履修年次 | 2年次 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 保健で購入済み | 副教材・実習費 | あり()円程度・(な) |
| 受講をする上での注意 | 運動着, 校舎用運動靴着用。爪を短く整え, 付け爪やアクセサリ類を外す。 | | | | |
| 学習目標 | <p>社会生活における健康・安全について理解するとともに, 技能を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて思考し, 判断するとともに, 他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに, 健康の保持増進と体力の向上を目指し, 明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <p>運動の合理的, 計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。</p> <p>また, 個人及び社会生活における健康・安全について, 課題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。</p> | | | 知識を問う小テストや技能を見るスキルテストなどをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <p>自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し, それらを表現している。</p> <p>また, 個人及び社会生活における健康課題を発見し, その解決を目指して, 総合的に考え, 判断し, それらを表現している。</p> | | | 振り返りシートや自己評価カードなどをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう, 運動の合理的, 計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。</p> | | | 授業に臨む態度・発言・準備や片付けへの協力などをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中間 | <p>・バドミントン (変更の可能性あり)</p> <p>※種目・内容については生徒の実態や人数に応じて変更の可能性あり</p> | | | |
| 前期期末 | | <p>・器械運動 (変更の可能性あり)</p> <p>※種目・内容については生徒の実態や人数に応じて変更の可能性あり</p> | | | |
| 後期中間 | 期末 | <p>・バレーボール・バスケットボール・サッカー等 (変更の可能性あり)</p> <p>※種目・内容については生徒の実態や人数に応じて変更の可能性あり</p> | | | |
| 後期末 | | <p>・卓球 (変更の可能性あり)</p> <p>※種目・内容については生徒の実態や人数に応じて変更の可能性あり</p> | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|---------|---|------------------|
| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 体育A | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 選択必履修科目 | 履修年次 | I部3年次以上・II部2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 保健で購入済み | 副教材・実習費 | あり()円程度(なし) |
| 受講をする上での注意 | 運動着, 校舎用運動靴着用。爪を短く整え, 付け爪やアクセサリ類を外す。 | | | | |
| 学習目標 | 社会生活における健康・安全について理解するとともに, 技能を身につける。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて思考し, 判断するとともに, 他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに, 健康の保持増進と体力の向上を目指し, 明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 運動の合理的, 計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。 また, 個人及び社会生活における健康・安全について, 課題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。 | | | 知識を問う小テストや技能を見るスキルテストなどをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し, それら表現している。 また, 個人及び社会生活における健康課題を発見し, その解決を目指して, 総合的に考え, 判断し, それら表現している。 | | | 振り返りシートや自己評価カードなどをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう, 運動の合理的, 計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 | | | 授業に臨む態度・発言・準備や片付けへの協力などをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | ・バスケットボール(変更の可能性あり) ※ゴール型種目を中心に編成 ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |
| 前期期末 | 間 | ・サッカー(変更の可能性あり) ※ゴール型種目を中心に編成 ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |
| 後期中間 | 期 | ・ハンドボール(変更の可能性あり) ※ゴール型種目を中心に編成 ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |
| 後期期末 | 末 | ・選択 ※ゴール型種目(バスケットボール, サッカー, ハンドボール)から選択 ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|---------|---|------------------|
| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 体育B | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | ○通年・○半期 | 履修区分 | 選択必履修科目 | 履修年次 | I部3年次以上・II部2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 保健で購入済み | 副教材・実習費 | あり()円程度 ○なし |
| 受講をする上での注意 | 運動着, 校舎用運動靴着用。爪を短く整え, 付け爪やアクセサリ類を外す。 | | | | |
| 学習目標 | 社会生活における健康・安全について理解するとともに, 技能を身につける。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて思考し, 判断するとともに, 他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに, 健康の保持増進と体力の向上を目指し, 明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 運動の合理的, 計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。 また, 個人及び社会生活における健康・安全について, 課題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。 | | | 知識を問う小テストや技能を見るスキルテストなどをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し, それら表現している。 また, 個人及び社会生活における健康課題を発見し, その解決を目指して, 総合的に考え, 判断し, それら表現している。 | | | 振り返りシートや自己評価カードなどをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう, 運動の合理的, 計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 | | | 授業に臨む態度・発言・準備や片付けへの協力などをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | ・バドミントン(変更の可能性あり) ※ネット型種目を中心に編成 ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |
| 前期期末 | 間 | ・卓球(変更の可能性あり) ※ネット型種目を中心に編成 ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |
| 後期中間 | 期 | ・バレーボール(変更の可能性あり) ※ネット型種目を中心に編成 ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |
| 後期期末 | 末 | ・選択(変更の可能性あり) ※ネット型種目を中心に編成 ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|--|----------|---|------------------|
| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 体育C | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・(半期) | 履修区分 | 選択必修履修科目 | 履修年次 | I部3年次以上・II部2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 保健で購入済み | 副教材・実習費 | あり()円程度 (なし) |
| 受講をする上での注意 | 運動着, 校舎用運動靴着用。爪を短く整え, 付け爪やアクセサリ類を外す。 | | | | |
| 学習目標 | 社会生活における健康・安全について理解するとともに, 技能を身につける。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて思考し, 判断するとともに, 他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに, 健康の保持増進と体力の向上を目指し, 明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 運動の合理的, 計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。 また, 個人及び社会生活における健康・安全について, 課題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。 | | | 知識を問う小テストや技能を見るスキルテストなどをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し, それらを表現している。 また, 個人及び社会生活における健康課題を発見し, その解決を目指して, 総合的に考え, 判断し, それらを表現している。 | | | 振り返りシートや自己評価カードなどをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう, 運動の合理的, 計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 | | | 授業に臨む態度・発言・準備や片付けへの協力などをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | ・陸上競技 個人種目を中心に編成 ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |
| 前期期末 | 間 | ・陸上競技 個人種目を中心に編成 ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |
| 後期中間 | 期 | ・器械運動 個人種目を中心に編成 ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |
| 後期期末 | 末 | ・器械運動 個人種目を中心に編成 ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|--|----------|--|-------------|
| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 体育D | 単位数 | 1 |
| 開講時期 | 通年・(半期) | 履修区分 | 選択必修履修科目 | 履修年次 | 3年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 保健で購入済み | 副教材・実習費 | あり()円程度(な) |
| 受講をする上での注意 | 運動着, 校舎用運動靴着用。爪を短く整え, 付け爪やアクセサリ類を外す。 | | | | |
| 学習目標 | <p>社会生活における健康・安全について理解するとともに, 技能を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて思考し, 判断するとともに, 他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに, 健康の保持増進と体力の向上を目指し, 明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <p>運動の合理的, 計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。</p> <p>また, 個人及び社会生活における健康・安全について, 課題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。</p> | | | <p>知識を問う小テストや技能を見るスキルテストなどをもとにA・B・Cの三段階で評価</p> | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <p>自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し, それらを表現している。</p> <p>また, 個人及び社会生活における健康課題を発見し, その解決を目指して, 総合的に考え, 判断し, それらを表現している。</p> | | | <p>振り返りシートや自己評価カードなどをもとにA・B・Cの三段階で評価</p> | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう, 運動の合理的, 計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。</p> | | | <p>授業に臨む態度・発言・準備や片付けへの協力などをもとにA・B・Cの三段階で評価</p> | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | <p>○選択 ※ゴール型種目やネット型種目, 対人・個人種目から選択。 ※ルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意し練習や試合を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。</p> | | | |
| 前期期末 | 間 | <p>○選択 ※ゴール型種目やネット型種目, 対人・個人種目から選択。 ※ルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意し練習や試合を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。</p> | | | |
| 後期中間 | 期 | <p>○選択 ※ゴール型種目やネット型種目, 対人・個人種目から選択。 ※ルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意し練習や試合を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。</p> | | | |
| 後期期末 | 末 | <p>○選択 ※ゴール型種目やネット型種目, 対人・個人種目から選択。 ※ルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意し練習や試合を行う。 ※体育①(②)で学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。</p> | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|--|---------|---|---------------|
| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 体育F | 単位数 | 1 |
| 開講時期 | 通年・(半期) | 履修区分 | 選択必履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 保健で購入済み | 副教材・実習費 | あり()円程度 (なし) |
| 受講をする上での注意 | 運動着, 校舎用運動靴着用。爪を短く整え, 付け爪やアクセサリ類を外す。 | | | | |
| 学習目標 | 社会生活における健康・安全について理解するとともに, 技能を身につける。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて思考し, 判断するとともに, 他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに, 健康の保持増進と体力の向上を目指し, 明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 運動の合理的, 計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。 また, 個人及び社会生活における健康・安全について, 課題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。 | | | 知識を問う小テストや技能を見るスキルテストなどをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し, それらを実践している。 また, 個人及び社会生活における健康課題を発見し, その解決を目指して, 総合的に考え, 判断し, それらを実践している。 | | | 振り返りシートや自己評価カードなどをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう, 運動の合理的, 計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 | | | 授業に臨む態度・発言・準備や片付けへの協力などをもとにA・B・Cの三段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | ・陸上競技(変更の可能性あり) ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試技を行う。 | | | |
| 前期期末 | 間 | ・陸上競技(変更の可能性あり) ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試技を行う。 | | | |
| 後期中間 | 期 | ・フットサル(変更の可能性あり) ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育Eで学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |
| 後期期末 | 末 | ・フットサル(変更の可能性あり) ※基本的なルールを理解しながら自己の能力に応じた体力や技能を高めるとともに, 安全に留意して練習や試合・発表を行う。 ※体育Eで学んだ内容を発展させ, ルールを理解し, ゲームを行えることを目指す。 | | | |

| | | | | | |
|----------------------|---|--|--------------|--|-----------------------|
| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 保健A | 単位数 | 1 |
| 開講時期 | 通年・ 半期 | 履修区分 | 必修 選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 636円 | 副教材・実習費 | あり (860)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につける。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | ・現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、「健康の考え方」や「健康の保持増進と疾病の予防」、「精神の健康」、「交通安全」、「応急手当」についての知識が身についている。 | | | 知識・技能を問う 考査・小テスト・ 単元テストを基に A・B・Cの三段階で 評価 | |
| 思考力・ 判断力・ 表現力等 | ・現代社会と健康について、課題を発見し健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 | | | 課題プリントや授 業中の発言、小テ ストなどを基にA・ B・Cの三段階で評 価 | |
| 主体的に学習に 取り組む態度 | ・健康を優先し、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに関する学習に主体的に取り組もうとしている。 | | | 授業に取り組む姿 勢や発言・自己評 価などを基にA・B・ Cの三段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | 1 単元 現代社会と健康 ・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病とその予防など | | | |
| 前期 期末 | | 1 単元 現代社会と健康 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康など | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | 1 単元 現代社会と健康 ・性感染症・エイズとその予防 ・欲求と適応機制 ・心身の相関とストレスなど | | | |
| 後期 期末 | | 1 単元 現代社会と健康 ・交通事故を防ぐために ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当など | | | |

| | | | | | |
|----------------------|---|---|----------|--|-----------------|
| 教科名 | 保健体育 | 科目名 | 保健B | 単位数 | 1 |
| 開講時期 | 通年・(半期) | 履修区分 | (必修)・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 保健Aで購入済み | 副教材・実習費 | (あり)(860)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につける。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | ・生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保持・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解している。 ・社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解している。 | | | 知識・技能を問う 調査・小テスト・ 単元テストを基に A・B・Cの三段階で評価 | |
| 思考力・ 判断力・ 表現力等 | ・生涯に通じる健康と社会生活と健康について、課題を発見し健康や安全、環境に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。 | | | 課題プリントや授業中の発言、小テストなどを基にA・B・Cの三段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・健康を優先し、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに関する学習に主体的に取り組もうとしている。 | | | 授業に取り組む姿勢や発言・自己評価などを基にA・B・Cの三段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 | 2単元 生涯を通じる健康 ・思春期と健康 ・性への関心・欲求と性行動 ・妊娠・出産と健康など | | | |
| 前期 期末 | 間 | 2単元 生涯を通じる健康 ・医療サービスとその活用 ・保健サービスとその健康 ・さまざまな保健活動や対策など | | | |
| 後期 中間 | 期 | 3単元 社会生活と健康 ・大気汚染と健康 ・水質汚濁・土壌汚染と健康 ・環境汚染を防ぐ取組みなど | | | |
| 後期 期末 | 末 | 3単元 社会生活と健康 ・ごみの処理と上下水道の整備 ・食品の安全を守る活動 ・働くことと健康など | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|---------|------------------------------|-----------------|
| 教科名 | 芸術 | 科目名 | 書道 I | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | 選択必履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 498円 | 副教材・実習費 | ○あり(4000)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 書道の技術を習得したい人。 | | | | |
| 学習目標 | 書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに感性を高め、書写能力の向上を目指し、表現と鑑賞の基本的な能力を伸ばして、書の伝統と文化についての理解を深める。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 仮名交じり書、漢字、仮名の書、それぞれに対して用具用材の特徴を理解し、適切に扱うことや古典に基づいた点画や意図に基づく表現を工夫の上構成することができる。 漢字仮名交じり書に関しては、漢字と仮名の調和した線質の表し方を習得することができる。 鑑賞に関しては、漢字の書体の変遷や仮名の成立を理解し、見ることを楽しみ、書のみしさと表現効果を味わい感じることができる。 日本と中国などの文字と書の伝統と文化を理解することができる。 | | | 知識、技能を問う 実技を基にABCで 評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 芸術や実用書を書くときに、漢字と仮名の調和が目的によって、その表現が様々ではないことを理解し、判断して構想する思考をもつ工夫をしつつ書くことができる。 | | | 思考、判断力を問う 実技を基にABC で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 書への関心を持ち、その効用を理解して、楽しみ味わい、生涯のプラスになるように積極的な方向にむいているかどうか。 | | | 主体的に取り組んでいるかを 実技を基にABCで評価 | |
| 学期 | 学習内容・方法 (予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 書写から書道へ移行がスムーズにいくよう楷書から学びます。まず小筆で校歌を書きます。次に書の美には単に整っているだけではない古典があることを知ってもらい臨書します。九成宮醜泉銘、牛橛像造記の臨書と鑑賞。 | | | |
| 前期期末 | 間 | 書の古典より楷書の鄭羲下碑、雁塔聖教序、顔氏家廟碑、孔子廟堂碑の臨書と鑑賞。それぞれの筆使いや造形の違いを学びながら書風の違いを書き分けます。 | | | |
| 後期中間 | 期 | 行書の古典の蘭亭序、空海の手紙である風信帖を鑑賞、臨書するとともにそれぞれのエピソードを紹介します。曹全碑の臨書によりその特徴を知りあまり日常的でない隸書体が現代にも使われている例を示します。三筆、三蹟についてはそれぞれの名前を書いて覚え、かつ三筆については臨書します。 | | | |
| 後期期末 | 末 | 始めに仮名の筆の扱い方や墨のすり方を学びます。硯の使い方を再確認し墨をすって仮名の基本線から書き始めます。万葉仮名、草仮名、カタカナについて変遷を知り仮名の成り立ちや使用例を学びます。いろは、変体仮名、連綿を書き、書道Ⅱへの準備とします。 | | | |

| | | | | | |
|----------------------|--|---|--------|--|-----------------|
| 教科名 | 芸術 | 科目名 | 書道Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | 必修・○選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆～★★★★ | 教科書代金(予定) | 417円 | 副教材・実習費 | ○あり(5000)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 「書道Ⅰ」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基本的な能力を伸ばして、書の伝統と文化についての理解を深める。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <p>古典に基づいた点画や線質の表し方を理解し、用筆や運筆の技法を習得することができる。</p> <p>字形の構成を理解し、全体の構成を理解することができる。</p> <p>意図に基づく表現を構成し、工夫することができる。</p> <p>漢字仮名交じり書に関しては、漢字と仮名の調和した線質の表し方を習得することができる。</p> <p>鑑賞に関しては、漢字の書体の変遷や仮名の成立を理解し、見ることを楽しみ書の美しさと表現効果を味わい感じることができる。</p> <p>日本と中国などの文字と書の伝統と文化を理解することができる。</p> | | | 知識、技能を問う 実技を基にABCで 評価。 | |
| 思考力・ 判断力・ 表現力等 | 芸術や実用書を書くときに、漢字と仮名の調和が目的によって、その表現が様々ではないことを理解し、判断して構想する思考をもつ工夫をしつつ書くことができる。 | | | 思考、判断を問う 実技を基にABCで 評価。 | |
| 主体的に学習に 取り組む態度 | 書への関心を持ち、その効用を理解して、楽しみ味わい、生涯のプラスになるように積極的な方向にむいているかどうか。 | | | 主体的に学習に取り 込んでいるかを 実技を基にABCで 評価。 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 | 金文、石鼓文、甲骨文の臨書により篆書の用筆、文字の形の特徴を学びます。自分の名前の篆書体を五体字類で調べ書いてみます。篆刻では姓名印を作り後日作品に押します。和とじの仕方を学び、和綴じ本を作ります。 | | | |
| 前期 期末 | 間 | 典型的な隸書は字形が横長で横画や右払いに波磔がみられます。事務的なものが主ですが石碑や摩崖に残されたものもあり、曹全碑や石門頌の毛筆の機能をよく生かした古典を学びます。 | | | |
| 後期 中間 | 期 | 祭姪稿の鑑賞と臨書により顔真卿の人と書について学びます。温泉銘により、自在で気宇壮大な書きぶりの書である太宗皇帝の書の臨書と鑑賞をします。 | | | |
| 後期 期末 | 末 | 継色紙により散らし書きの表現方法を学習します。漢字仮名交じり書を制作、鑑賞書の表現の多様性を学びます。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|----------|---|--------------------------|
| 教科名 | 芸術 | 科目名 | 美術 I | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | ○ <u>通年</u> ・半期 | 履修区分 | 選択必修履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 1069円 | 副教材・実習費 | ○ <u>あり</u> (2000)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 汚れても大丈夫な格好で受講することが望ましい。 | | | | |
| 学習目標 | 美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を身に付ける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練ることができる。意図に応じて材料や用具の特性を生かすことができる。 | | | 作品の構想や、下図、クロッキーなどを基にA、B、Cで評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 絵画や彫刻において、感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成することができる。デザインにおいて、目的、機能、美しさなどを考えて主題を生成することができる。 | | | 作品の仕上がりや、作品に対するコンセプトなどを基にA、B、Cで評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深めることができる。自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、理解を深めることができる。 | | | 自身の制作に真剣に取り組んだ上で、他者の作品への興味や理解の様子を基にA、B、Cで評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・絵画 身近なものを観察して描く | | | |
| 前期 期末 | | <ul style="list-style-type: none"> ・彫刻 観察して手像をつくる | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン パッケージデザインを考える ・版画 グリーティングカードをつくる | | | |
| 後期 期末 | | <ul style="list-style-type: none"> ・絵画 技法の習得 自ら主題を決め絵画を制作する | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|-------|------------------------------------|----------------|
| 教科名 | 芸術 | 科目名 | 美術Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆～★★★★ | 教科書代金(予定) | 850円 | 副教材・実習費 | あり(3000)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 「美術Ⅰ」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を身に付ける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 表現形式を選択し、創造的で心豊かな表現の構想を練ることができる。 | | | 作品の構図や、下図、クロッキーなどを基に評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 自然、自己、社会などを深く見つめて主題を生成することができる。主題にあった表現方法を工夫し、創造的に表現することができる。 | | | 作品の仕上がりや、作品に対するコンセプトなどを基に評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 作品や作者の個性などに関心をもち、発想構想の独自性、表現の工夫などについて、多様な視点から分析し理解することができる。 | | | 自身の制作に真剣に取り組んだ上で、他者の作品への興味や理解を基に評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 間 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 一年間の学習内容の確認 ・デッサン モチーフの特徴や質感を捉える ・絵画 日本画 うちの制作 | | | |
| 前期期末 | | <ul style="list-style-type: none"> ・彫刻 彫刻の鑑賞 粘土造形 | | | |
| 後期中間 | 期 末 | <ul style="list-style-type: none"> ・映像メディア表現 映像作品の鑑賞 | | | |
| 後期期末 | | <ul style="list-style-type: none"> ・絵画, 油絵の制作 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|---------|--------------------------|----------------|
| 教科名 | 芸術 | 科目名 | 音楽 I | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | 選択必履修科目 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 478円 | 副教材・実習費 | ○あり(200)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深めることができる。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 曲家の生涯と音楽を楽曲の文化的、歴史的背景から特徴を理解し、また、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解し、鑑賞することができる。ギター演奏を通して、音階とコードの習得ができ、アンサンブル演奏ができる。音素材の特徴を生かし、反復、変化、対象などの構成を工夫して、イメージを持って音楽を作ることができる。 | | | 知識、技能を問う 実技を基にABCで評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 様々な表現形態による歌唱の特徴と表現上の効果と関わりを理解し、表現を工夫し、歌うこと、創作すること、楽器を演奏することができる。曲想を楽曲の背景と関わらせて理解し、表現を工夫して歌うこと、演奏すること、創作することができる。 | | | 思考、判断力を問う 実技を基にABCで評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 自ら音楽の時代背景や様々な音楽分野に興味、関心を抱き、積極的に知識の習得と目標に向かい取り組み、生活や授業の中で応用することができる。 | | | 主体的に取り組んでいるかを実技を基にABCで評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 音楽の基礎である合唱曲を学ぶ。 ・鑑賞 作曲家の生涯と音楽を映画から学ぶ。 ※楽譜の読み方等の楽典的事項は随時習得する。 | | | |
| 前期期末 | 間 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本歌曲、ビートルズ等。 ・ギター 音階の練習。 ・歌舞伎や声明などの日本の伝統芸能や音楽について学ぶ。 | | | |
| 後期中間 | 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱：イタリア歌曲、ミュージカル音楽。 ・器楽：ギター コードの習得。 ・鑑賞：世界の諸民族の音楽に親しむ。オペラを鑑賞する。 | | | |
| 後期期末 | 末 | <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱：日本歌曲、ドイツ語歌曲。 ・アンサンブル：クラッピングによるリズムアンサンブル。 ・鑑賞：ミュージカルを鑑賞する。 | | | |

| | | | | | |
|----------------------|---|---|-------|--|---------------|
| 教科名 | 芸術 | 科目名 | 音楽Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆～★★★★ | 教科書代金(予定) | 321円 | 副教材・実習費 | あり(100)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 「音楽Ⅰ」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深めることができる。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 音を形作っている要素とそれらの働きを理解して歌うこと、創作すること、楽器を演奏することができる。曲種に応じた発声の特徴と表現上の効果と関わりを理解し、表現を工夫して歌うことができる。楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果と関わりを理解し、表現を工夫して演奏することができる。曲想を楽曲の背景と関わらせて理解し、イメージを持って演奏することができる。 | | | 知識、技能を問う 実技を基にABCで 評価。 | |
| 思考力・ 判断力・ 表現力等 | 様々な表現形態による歌唱の特徴と表現上の効果と関わりを理解し、表現を工夫し、歌うこと、創作すること、楽器を演奏することができる。曲想を楽曲の背景と関わらせて理解し、表現を工夫して歌うこと、演奏すること、創作することができる。 | | | 思考、判断を問う 実技を基にABCで 評価。 | |
| 主体的に学習に 取り組む態度 | 自ら音楽の時代背景や様々な音楽分野に興味、関心を抱き、積極的に知識の習得と目標に向かい取り組み、生活や授業の中で応用することができる。 | | | 主体的に学習に取り 込んでいるかを 実技を基にABCで 評価。 | |
| 学期 | 学習内容・方法 (予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 | <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 合唱曲を中心に。 ・鑑賞 楽曲の構成、演奏の形態について学ぶ。 ・器楽 リコーダー 教科書の曲から指定したものを学ぶ。 ※楽譜の読み方等の楽典的事項は随時習得する。 | | | |
| 前期 期末 | 間 | <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 日本歌曲、カントリーミュージック等。 ・器楽 (ギター・リコーダー) グループごとに教科書の曲から選択しアンサンブルを行う。 ・鑑賞 作曲家の生涯と音楽を映画から学ぶ。 ※楽譜の読み方等の楽典的事項は随時習得する。 | | | |
| 後期 中間 | 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 日本歌曲、イタリア歌曲。 ・器楽 ギター グループでの発表。 ・鑑賞 尺八や津軽三味線など日本の伝統的な音楽について学ぶ。 ※楽譜の読み方等の楽典的事項は随時習得する。 | | | |
| 後期 期末 | 末 | <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 日本歌曲、ミュージカル音楽。 ・鑑賞 世界の諸民族の音楽を鑑賞し、歴史や文化について学ぶ。 ・創作 リズムの創作。クラシックの小品への歌詞付け。 ※楽譜の読み方等の楽典的事項は随時習得する。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|--------------|---|---------------|
| 教科名 | 外国語 | 科目名 | コミュニケーション英語Ⅰ | 単位数 | 3 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | ○必修・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 646円 | 副教材・実習費 | あり()円程度(○なし) |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を培うとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ・外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。 | | | 提出物の提出状況や小テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等を加え、総合的に評価する。 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 | | | 提出物の提出状況や小テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等を加え、総合的に評価する。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | | | 提出物の提出状況や小テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等を加え、総合的に評価する。 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | Lesson1 ①オリンピック招致スピーチについての対話を読み取る。②オリンピック招致スピーチが英語でなされた理由について自ら考える。③英語を学習する理由について、自分の意見を発表する。現在形と過去形、疑問詞を使った疑問文を理解し、文を作ることができる。 | | | |
| 前期期末 | 間 | Lesson2 ①ご当地キャラの特徴と、海外での活動について読み取る。②ご当地キャラの意義について自ら考える。③自分のお気に入りのご当地キャラについて発表する。④進行形を理解し、文を作ることができる。 Lesson3 ①宇宙での生活で気を付けることについて読み取る。②自分が宇宙で生活することを想定し、考える。③宇宙での生活について自分の考えを発表する。④助動詞を理解し、文を作ることができる。 | | | |
| 後期中間 | 期 | Lesson4 ①聞き書き甲子園の内容や意義について読み取る。②伝統技術や自然を大切にする態度を伝えていくことについて、自ら考える。③自分で調べた森・川・海の名人について発表する。④to不定詞を理解し、文を作ることができる。 Lesson5 ①マングローブとは何か、およびその利点と現在の様子について読み取る。②マングローブの伐採と保護について自ら考える。③マングローブについて調べたことを発表する。④動名詞を理解し、文を作ることができる。 | | | |
| 後期末 | 末 | Lesson6 ①宮沢さんが『島唄』を作ったきっかけと、歌に込められた意味を読み取る。②沖縄戦について歌った部分から、平和について考える。③世界で広まる『島唄』について、調べたことを発表する。④受動態を理解し、文を作ることができる。 Lesson7 ①最新のプリントシール機の機能と、そのベースとなった科学的調査について読み取る。②日本の文物が海外で受容されていることについて自ら考える。③クールジャパンの例について調べて発表させる。④比較表現を理解し、文を作ることができる。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|--------------|---|-------------|
| 教科名 | 外国語 | 科目名 | コミュニケーション英語Ⅱ | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | 通年 半期 | 履修区分 | 必修・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 667円 | 副教材・実習費 | あり()円程度 ない |
| 受講をする上での注意 | 「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 英語を使用し、コミュニケーション英語Ⅰで学習した内容を基盤に、より積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を培うとともに、得た情報や他者の考えなどを理解したり、自分の考えを適切に伝える能力を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 外国語の4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。 | | | 提出物の提出状況や小テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等を加え、総合的に評価する。 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> 場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 | | | 提出物の提出状況や小テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等を加え、総合的に評価する。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | | | 提出物の提出状況や小テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等を加え、総合的に評価する。 | |
| 学期 | 学習内容・方法（予定） | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | Lesson 1 Hot Springs and Baths in the World 日本と海外との入浴文化の違いを通じて、日本の文化や郷土のよさを見直し、文化の違いについての理解を深める。*過去完了 / S+V+01+02 / S+V+0 | | | |
| 前期期末 | | Lesson 2 Simple Spelling Systems? スペリングと発音の関係の由来を知り、言語に対する興味・知識を深める。*現在完了受動態 / 部分否定 / 仮定法過去 | | | |
| 後期中間 | 期 | Lesson 3 Living Dinosaurs? 恐竜生存説に関する高校生の発表を通じて、自他理解のあり方と効果的なプレゼンテーションのしかたを学ぶ。*前置詞+関係代名詞 / 関係副詞 | | | |
| 後期期末 | | Lesson 4 African-American First Lady 前アメリカ大統領夫人ミシェル・オバマの半生を読み、人種差別を克服した経緯や考え方を知る。 *S+V+0+C / to不定詞 / 分詞構文 | | | |
| 後期中間 | 末 | Lesson 5 Broaden Your Horizons 東西冷戦時代の米ソ間で行われていたホームステイプログラムについての本文を読み、異文化理解の重要性を知る。*助動詞+have+過去分詞 / to不定詞の完了形 / 使役動詞 | | | |
| 後期期末 | | Lesson 6 The Great Sorrow of Guernica パブロ・ピカソの名画「ゲルニカ」に込められた作者の思いや社会背景を学ぶ。 *S+V+it+C+that節 / 過去完了・受け身の進行形 / 関係代名詞whose | | | |
| | | Lesson 7 Without the Right Brain 幾多の困難に直面しながらも、芸術家として活躍するようになる少女の半生を読み、あきらめないことの大切さを学ぶ。*関係詞の非制限用法 / 強調構文 / 同格のthat | | | |
| | | Lesson 8 An Industrial Revolution in the Sky 日常生活に深くかかわりつつあるドローンの活用事例や、今後の新たな応用と、その利点と問題点を知る。*未来進行形 / 未来完了形 / 倒置 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|-------------------|---|-------------------------|
| 教科名 | 外国語 | 科目名 | コミュニケーション英語Ⅱ【発展】 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・ 半期 | 履修区分 | 必修・ 選択 | 履修年次 | 3年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★★ | 教科書代金(予定) | コミュニケーション英語Ⅱで購入済み | 副教材・実習費 | あり (1,600)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 「コミュニケーション英語Ⅱ」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 語彙や英文法・語法をしっかりと身につける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解している。また，読むこと，書くことに慣れ親しんでいる。 | | | 提出物の提出状況や小テスト及び授業への取り組み状況等で算出し，定期考査等を加え，総合的に評価する。 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどなどの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。 | | | 提出物の提出状況や小テスト及び授業への取り組み状況等で算出し，定期考査等を加え，総合的に評価する。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら，外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して，自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って，自律的，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | | | 提出物の提出状況や小テスト及び授業への取り組み状況等で算出し，定期考査等を加え，総合的に評価する。 | |
| 学期 | | 学習内容・方法（予定） | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | 大学入試に出題傾向の高い英文法・語法・熟語問題などを中心に副教材を使用して実践的な演習を行う。 | | | |
| 前期 期末 | | | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | 大学入試に出題傾向の高い英文法・語法・熟語問題などを中心に副教材を使用して実践的な演習を行う。 | | | |
| 後期 期末 | | | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|------------------------|---|------------------------|
| 教科名 | 外国語 | 科目名 | コミュニケーション英語Ⅲ | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | 必修・○選択 | 履修年次 | 3年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★★ | 教科書代金(予定) | 641円 | 副教材・実習費 | あり()円程度(○なし) |
| 受講をする上での注意 | 「コミュニケーション英語Ⅱ」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を培うとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばし、将来の社会生活での活用を目指す。特に4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)についての能力を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ・外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。 | | | 提出物の提出状況や小テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等を加え、総合的に評価する。 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 | | | 提出物の提出状況や小テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等を加え、総合的に評価する。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | | | 提出物の提出状況や小テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等を加え、総合的に評価する。 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 | Unit 1: 英文を読むために必要なスキルを重点的に学習する <RS: Reading Skill> | | | |
| | | RS 1 主語と動詞 | RS 2 フレーズ・リーディング | RS 3 代名詞 | RS 4 未知語の推測 |
| 前期 期末 | 間 | RS 5 パラグラフ構成 <GET> | RS 6 ディスコースマーカー① <GET> | RS 7 ディスコースマーカー② <GET> | RS 8 ディスコースマーカー③ <GET> |
| | | RS 9 ディスコースマーカー④ <GET> | RS 10 スキミング <GET> | RS 11 スキャニング <GET> | |
| 後期 中間 | 期 | Unit 2: 学んだスキルを活用して様々なトピックに関する英文を読む(300~350語) | | | |
| | | Lesson 1 異文化・歴史/エッセイ | Lesson 2 生き方・国際交流/人物伝 | Lesson 3 科学・医療/論説文 | Lesson 4 異文化・歴史/エッセイ |
| 後期 期末 | 末 | Lesson 5 科学・社会/論説文 | Lesson 6 文化・日常生活/ディベート | Lesson 7 比較文化・食物/論説文 | Lesson 8 環境・共生/論説文 |
| | | Unit 3: 学んだスキルを活用して様々なトピックに関する英文を読む(550~650語) | | | |
| | | Lesson 9 生き方・平和/人物伝 | Lesson 10 脳科学・科学/論説文 | Lesson 11 現代社会・技術/エッセイ | Lesson 12 情報社会・理論/論説文 |
| | | Lesson 13 平和・演説/論説文 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|--------|---|---------------|
| 教科名 | 外国語 | 科目名 | 英語表現 I | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | ○通年・○半期 | 履修区分 | 必修・○選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 586円 | 副教材・実習費 | あり()円程度(○なし) |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を培うとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ・外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。 | | | スピーチテスト、エッセイ、課題プリントの提出状況や単元テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等と合わせて総合的に評価する。 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語での確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 | | | スピーチテスト、エッセイ、課題プリントの提出状況や単元テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等と合わせて総合的に評価する。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | | | スピーチテスト、エッセイ、課題プリントの提出状況や単元テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等と合わせて総合的に評価する。 | |
| 学期 | | 学習内容・方法（予定） | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 | Lesson 1 自己紹介・クラスメート紹介 Lesson 2 人や物を説明する Lesson 3 交通についての表現 Lesson 4 週末に何をするか/したか Lesson 5 メールやパソコンについて | | | |
| | | Lesson 6 距離・時刻・天候 Lesson 7 夏の活動について Lesson 8 ～がある Lesson 9 身の回りの出来事 Lesson 10 昼休みの過ごし方 | | | |
| 後期 中間 | 期 | Lesson 11 比較表現 Lesson 12 人・動物・物 Lesson 13 趣味の紹介 Lesson 14 旅行に関する文 Lesson 15 買い物の表現 | | | |
| | | Lesson 16 レストランでの体験や料理 Lesson 17 環境に関する表現 Lesson 18 映画のキャラクター・出演者 Lesson 19 冬の過ごし方やスポーツ Lesson 20 現実とは異なる空想上の表現 | | | |
| 後期 期末 | 末 | | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|-------|--|-------------|
| 教科名 | 外国語 | 科目名 | 英語表現Ⅱ | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修 選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★★ | 教科書代金(予定) | 636円 | 副教材・実習費 | あり()円程度 ない |
| 受講をする上での注意 | 「英語表現Ⅰ」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を培うとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ・外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。 | | | スピーチテスト、エッセイ、課題プリントの提出状況や単元テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等と合わせて総合的に評価する。 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 | | | スピーチテスト、エッセイ、課題プリントの提出状況や単元テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等と合わせて総合的に評価する。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | | | スピーチテスト、エッセイ、課題プリントの提出状況や単元テスト及び授業への取り組み状況等で算出し、定期考査等と合わせて総合的に評価する。 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | Section 1 自分のことを表現してみよう ■Lesson 1 HOME (SV, SVC, SVO/疑問詞を用いた疑問文) ■Lesson 2 IN THE CLASSROOM (SVOO, SVOC/否定) ■Lesson 3 MUSIC (現在進行形/過去進行形) Section 2 ほかの人に発信してみよう ■Lesson 4 CLUB ACTIVITIES (現在完了形/過去完了形) ■Lesson 5 SCHOOL FESTIVAL (助動詞/助動詞+完了形) | | | |
| | | 前期末 | 間 | ■Lesson 6 THE INTERNET (受け身/助動詞+受け身) Section 3 スピーチを書いて、発表しよう。 ■Lesson 7 FRIENDS (比較/比較級+than any other) ■Lesson 8 SPORTS (動名詞/動名詞を用いた慣用表現) ■Lesson 9 THE ENVIRONMENT (to不定詞/to不定詞の否定) Section 4 プレゼンテーションをしよう ■Lesson 10 TRAVEL (分詞の形容詞的用法/SVOC=分詞) | |
| 後期中間 | 期 | ■Lesson 11 COOKING (SVO+to不定詞/SVO+動詞の原形) ■Lesson 12 JAPANESE CULTURE (SVO=that節/SVOO=that節) Section 5 ディスカッションをしよう ■Lesson 13 BOOKS (疑問詞+to不定詞/SVOO=whether節) ■Lesson 14 STUDYING ABROAD (副詞節/分詞構文) ■Lesson 15 TRANSPORTATION (形式主語 it / It is ~whether など) | | | |
| 後期末 | 末 | Section 6 デバートをしよう ■Lesson 16 DAILY LIFE (関係代名詞/前置詞の目的語になる関係代名詞) ■Lesson 17 HOLIDAY SPOTS (関係副詞/関係詞の非制限用法) ■Lesson 18 HOLIDAYS (仮定法過去/仮定法過去完了) Supplementary Practice エッセイを書こう ■Practice 1 LAUGH YOURSELF HEALTHY [例示・列挙] ■Practice 2 SHINJI KAGAWA, HIS SOCCER LIFE [時間的順序] ■Practice 3 TWO WAYS OF SHOPPING [比較・対照] | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|-------|--|-------------|
| 教科名 | 外国語 | 科目名 | 英語会話 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 560円 | 副教材・実習費 | あり()円程度(な) |
| 受講をする上での注意 | ALTとのティームティーチングによる学習 | | | | |
| 学習目標 | 1. 様々な場面において英語による一般的な会話ができる。 2. 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。 3. 基礎的な英語の発音で会話ができる。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | ・外国語の4技能(聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くこと)について, 実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ・外国語の学習を通じて, 言語の働きや役割などを理解している。 | | | スピーチテスト, エッセイ, 課題プリントの提出状況や単元テスト及び授業への取り組み状況等で算出し, 定期考査等と合わせて総合的に評価する。 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | ・場面, 目的, 状況等に応じて, 日常的话题から時事問題や社会問題まで幅広い話題について, 情報や考えなどを外国語での確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して, 自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 | | | スピーチテスト, エッセイ, 課題プリントの提出状況や単元テスト及び授業への取り組み状況等で算出し, 定期考査等と合わせて総合的に評価する。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・他者を尊重し, 聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら, 外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して, 自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って, 自律的, 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | | | スピーチテスト, エッセイ, 課題プリントの提出状況や単元テスト及び授業への取り組み状況等で算出し, 定期考査等と合わせて総合的に評価する。 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | 1 自己紹介(出身)における会話 2 通勤通学における会話 3 他者を紹介 4 趣味における会話 5 予定における会話 | | | |
| 前期 期末 | | 6 誘う 7 電話における会話 8 過去 9 レストランにおける会話 | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | 10 道を知る 11 道案内 12 買い物における会話 13 空港における会話 | | | |
| 後期 期末 | | 14 緊急事態における会話 15 ソーシャルスキル 16 面接 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|--------------|---|-------------------|
| 教科名 | 外国語 | 科目名 | 韓国語基礎 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・ 半期 | 履修区分 | 必修 選択 | 履修年次 | 1年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 2,600円(予定) | 副教材・実習費 | あり()円程度 な |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 韓国文化の理解とともに、以下のような能力を身につけることを目指す。 ①ハングル文字の仕組みを理解し、韓国語の読み書きと発音を理解する。 ②簡単なあいさつ表現・基本的な文章の読み書きやペアでの会話練習を行い、基礎レベルの韓国語の会話を行う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | ・外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ・外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。 | | | 課題プリントの提出状況と単元ごとの読みテストや小テスト、授業への取り組み状況、定期考査等を合わせて総合的に評価する | |
| 思考力・判断力・表現力等 | ・場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 | | | 課題プリントの提出状況と単元ごとの読みテストや小テスト、授業への取り組み状況、定期考査等を合わせて総合的に評価する | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | | | 課題プリントの提出状況と単元ごとの読みテストや小テスト、授業への取り組み状況、定期考査等を合わせて総合的に評価する | |
| 学期 | 学習内容・方法(予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 1. 韓国語の概要：文字と語順、簡単なあいさつ言葉の言い方 2. 文字と発音：基本母音、基本子音、複合母音、パッチム 3. 音の変化：有声音化、連音化、鼻音化などの発音法則 | | | |
| 前期期末 | 間 | 4. 自己紹介表現 5. 指示表現、疑問文と答えの会話表現 | | | |
| 後期中間 | 期 | 6. 丁寧表現と否定形 7. 漢数詞(年・月・日など) | | | |
| 後期期末 | 末 | 8. うちとけた丁寧表現 9. うちとけた丁寧表現の否定形 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|------------|---|---------------|
| 教科名 | 外国語 | 科目名 | 韓国語会話 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年 (半期) | 履修区分 | 必修 (選択) | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 韓国語基礎で購入済み | 副教材・実習費 | あり()円程度 (なし) |
| 受講をする上での注意 | 「韓国語基礎」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | <p>韓国語基礎での学習内容を踏まえ、異文化の理解とともに、韓国語表現能力の幅を広げることを目指す。</p> <p>①述語文の領域を広め、名詞文と存在文、動詞文と形容詞文を活用し、日常生活で使えるようにする。</p> <p>②あいさつ表現、基本的な述語文の作文とペアでの会話練習を行い、より高いレベルの韓国語能力を身につける。</p> | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ・外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。 | | | 課題プリントの提出状況と単元ごとの読みテストや小テスト、授業への取り組み状況、定期考査等を合わせて総合的に評価する | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 | | | 課題プリントの提出状況と単元ごとの読みテストや小テスト、授業への取り組み状況、定期考査等を合わせて総合的に評価する | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | | | 課題プリントの提出状況と単元ごとの読みテストや小テスト、授業への取り組み状況、定期考査等を合わせて総合的に評価する | |
| 学期 | | 学習内容・方法（予定） | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | 1. 固有数詞（単位名詞を用いる） 2. 動詞・形容詞文の過去形 | | | |
| 前期 期末 | | 3. 進行・希望表現 4. 意思・目的表現 | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | 5. 授受表現 6. 格式体敬語 | | | |
| 後期 期末 | | 7. 意向を尋ねる表現 8. 勧誘表現 9. より豊かな自己紹介文を作り発表する | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---------------------------------|---------------|---|--------------------|
| 教科名 | 外国語 | 科目名 | 中国語基礎 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・ 半期 | 履修区分 | 必修・ 選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 2750円 | 副教材・実習費 | あり()円程度 なし |
| 受講をする上での注意 | 特になし | | | | |
| 学習目標 | 中国文化の理解とともに、以下のような能力を身につけることを目指す。 ①簡体字の仕組みを理解し、中国語の読み書きと発音を理解する。 ②簡単なあいさつ表現・基本的な文章の読み書きやペアでの会話練習を行い、基礎レベルの中国語の会話を行う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | ・外国語の4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ・外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。 | | | 課題プリントの提出状況と単元ごとの読みテストや小テスト、授業への取り組み状況、定期考査等を合わせて総合的に評価する | |
| 思考力・判断力・表現力等 | ・場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 | | | 課題プリントの提出状況と単元ごとの読みテストや小テスト、授業への取り組み状況、定期考査等を合わせて総合的に評価する | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | | | 課題プリントの提出状況と単元ごとの読みテストや小テスト、授業への取り組み状況、定期考査等を合わせて総合的に評価する | |
| 学期 | | 学習内容・方法（予定） | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | ①ピンインと四声 ②簡単な単語と数字、年号の発音 | | | |
| 前期 期末 | | ③挨拶の会話 ④自己紹介 ⑤ものを尋ねる質問の仕方 | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | ①買い物のときの会話 ②家族構成を尋ねるときの会話 | | | |
| 後期 期末 | | ③状態を確認するときの会話 ④約束をするときの会話 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|----------------------------------|---------------|---|--------------------|
| 教科名 | 外国語 | 科目名 | 中国語会話 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・ 半期 | 履修区分 | 必修・ 選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 中国語基礎で購入済み | 副教材・実習費 | あり()円程度・ な |
| 受講をする上での注意 | 「中国語基礎」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | <p>中国語基礎での学習内容を踏まえ、異文化の理解とともに、中国語表現能力の幅を広げることを目指す。</p> <p>①述語文の領域を広め、名詞文と存在文、動詞文と形容詞文を活用し、日常生活で使えるようにする。</p> <p>②慣用的なあいさつ表現、基本的な述語文の作文とペアでの会話練習を行い、より高いレベルの中国語を身につける。</p> | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ・外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。 | | | 課題プリントの提出状況と単元ごとの読みテストや小テスト、授業への取り組み状況、定期考査等を合わせて総合的に評価する | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 | | | 課題プリントの提出状況と単元ごとの読みテストや小テスト、授業への取り組み状況、定期考査等を合わせて総合的に評価する | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | | | 課題プリントの提出状況と単元ごとの読みテストや小テスト、授業への取り組み状況、定期考査等を合わせて総合的に評価する | |
| 学期 | | 学習内容・方法（予定） | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 | ①曜日を尋ねるときの会話 ②お金についての会話 | | | |
| 前期 期末 | 間 | ③お店を訪ねるときの会話 ④旅行などについての会話 | | | |
| 後期 中間 | 期 | ①状況・時間・状態確認するときの会話 ②通学についての会話 | | | |
| 後期 期末 | 末 | ③アルバイトについての会話 ④休日の過ごし方についての会話 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|-------|--|----------------|
| 教科名 | 家庭 | 科目名 | 家庭基礎 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | | 副教材・実習費 | あり(2000)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 新型コロナウイルスの感染予防のため、当分の間、調理を含む実習や、密集してのグループ学習、校外学習は行わない予定です。原則、教室での授業となります。 | | | | |
| 学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解と技術を身につけ、家庭や地域の課題を解決する能力を培い、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養うことにより、家庭や生活を創造する資質・能力を高める。 ・これからの社会を担う一員として消費生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、豊かな消費生活を営むための生活の在り方について認識し、消費者として責任を持って行動する能力を高める。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の基本的な機能について理解し、生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。 ・社会の一員として自立した生活者に必要な知識・技能を身に付けている。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の姿勢 ・授業プリント ・実習 ・定期テスト等 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族、家庭や地域社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決のために、生活について探究し、生涯を見通して生活を創造している。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の姿勢 ・授業プリント ・定期テスト等 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・自立した生活に必要な知識・技能を身に付け、地域社会で共に支え合う社会の実現に向けて、家庭や地域の生活を創造し、主体的に実践しようとしている。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の姿勢 ・授業プリント ・実習 ・定期テスト等 | |
| 学期 | | 学習内容・方法（予定） | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 生涯を見通し主体的に生活するために、家族や地域社会の人々と協力・協働し、実践的・体験的な学習活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯の生活設計 ・青年期の自立と家族・家庭 | | | |
| 前期期末 | 間 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活と保育 ・高齢者の生活と福祉 (夏季休業中の課題として、ホームプロジェクト) ・共生社会と福祉 生活上の課題を設定し、解決に向けて生活を科学的に探究したり、創造する。 | | | |
| 後期中間 | 期 | 健康・快適・安全な衣食住の生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・衣生活と自立 ・住生活と自立 (冬季休業中の課題として、ホームプロジェクト) | | | |
| 後期末 | 末 | <ul style="list-style-type: none"> ・食生活と自立 持続可能な社会を構築するために、実践的体験的な学習活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活と経済 ・ライフスタイルと環境 再度生涯を見通す…生活設計 | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|---|--------------|--|-----------------------|
| 教科名 | 家庭 | 科目名 | 家庭基礎【発展】 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・ 半期 | 履修区分 | 必修 選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | なし | 副教材・実習費 | あ (2000)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 「家庭基礎」を履修済みであること。 演習や実験、調理を含む実習は、三密を避けて行う予定です。 | | | | |
| 学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・必履修科目である「家庭基礎」にて学習し身に付けた知識や考えを元に、生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。 ・家庭基礎を学習して、これからの社会を担う一員として消費生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけた上で、SDGsと日常生活を関連付け、持続可能な世界を目指すための情報の収集・選択と活用の仕方について考え、持続可能な社会を目指したライフスタイルを創造し、主体的に行動する能力を高める。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の基礎的・基本的な機能について理解している。 ・社会の一員として持続可能な社会を目指すための知識・技能を身に付けている。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の姿勢 ・授業プリント ・実習 ・定期テスト等 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭や地域社会における生活をはじめとして、世界に視野を広げ、問題を見出して課題を設定し、その解決のために、生活について探究し、生涯を見通してライフスタイルを創造している。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の姿勢 ・授業プリント ・定期テスト等 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を目指すために必要な知識・技能を身に付けている。 ・地域社会をはじめとして、世界の環境問題に特化したライフスタイルを創造し、主体的に実践しようとしている。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の姿勢 ・授業プリント ・実習 ・定期テスト等 | |
| 学期 | | 学習内容・方法（予定） | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 間 | I 家族・地域・社会との共生 1. 人の一生とライフステージ …アイデンティティの確立に向けた自己評価を中心とした学習。 2. 子どもの発達と保育 …グループで紙芝居を作成し、発表する。 | | | |
| 前期期末 | | 3. 高齢期の生活 …高齢者体験を通して具体的に高齢期における問題を理解し、解決策を見いだす。 4. 共生社会と福祉 …社会の一員として持続可能な社会を目指すために取り組めることを考え実行できるようにする。 | | | |
| 後期中間 | 期 末 | II 生活の自立 1. 住生活と自立・衣生活と自立・食生活と自立 …消費者としての衣服や食品の選択・取り扱いについて実験を踏まえた発展的な学習をする。 2. 消費生活と経済 …自立した大人になるため、経済の流れを理解し、適切な判断ができるように実践的な学習をする。 | | | |
| 後期期末 | | III ライフスタイルと環境 *人生を設計してみよう | | | |

| | | | | | |
|---------------|---|--|---------|--|-------------------|
| 教科名 | 家庭 | 科目名 | フードデザイン | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年 (半期) | 履修区分 | 必修 (選択) | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 626円 | 副教材・実習費 | (あり) (5000)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 「家庭基礎」を履修済みであること。被服室・調理室での演習や実習を行います。三密に配慮しつつグループでの実習も行います。職業科目の科目なので実技を主とします。 | | | | |
| 学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食生活を総合的にデザインするとともに、食育の推進に寄与する能力と態度を身につける。 ・我が国の食生活の多様化における食を取り巻く問題について考え、健康だけでなく環境に関して食がいかにかに重要かを気づき、SDGsと絡めて食生活の課題を解決する力を養う。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 食事の意義と役割を基礎的・基本的に理解し、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識・技能を身につけている。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の姿勢 ・授業プリント ・実習 ・定期テスト等 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | 自分自身の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深め、考えをまとめて判断ができている。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の姿勢 ・授業プリント ・実習 ・定期テスト等 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を身につけ、食生活に関する課題について創造し、主体的に実践しようとしている。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の姿勢 ・授業プリント ・実習 ・定期テスト等 | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 間 | 1. 食生活と栄養 2. 栄養素の働きと食事計画 | | | |
| 前期期末 | | 3. 調理の基本 ★フードデザイン実習 (調理の基礎) | | | |
| 後期中間 | 期 末 | 4. 食品の特徴・表示・安全 ★フードデザイン実習 (行事食の調理) 5. 料理様式とテーブルコーディネート | | | |
| 後期末 | | 6. 食育 | | | |

| | | | | | |
|---------------|-------|---|-------|---|-------------|
| 教科名 | 情報 | 科目名 | 社会と情報 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 962円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | | 特になし | | | |
| 学習目標 | | 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育む。 | | | |
| | | 評価の観点 | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | | <ul style="list-style-type: none"> 情報技術が生み出した問題について理解している。 心身への悪影響がないように、情報機器を適切に利用することができる。 個人情報やプライバシーの保護に関連する法律の意義や内容について理解している。 | | 知識・技能を問「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価する | |
| 思考力・判断力・表現力等 | | <ul style="list-style-type: none"> 情報の価値や信頼性、情報を検証する方法について考え、判断し、その結果を適切に表現している。 社会の情報化が人に及ぼしている影響について考え、判断している。 著作権などの知的財産権を保護することの必要性について考え、適切に判断し、対応している。 | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価する | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | <ul style="list-style-type: none"> インターネットを適切に活用して、主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。 問題解決を行うために、情報機器を効果的に活用しようとしている。 身の回りで使われているコンピュータや情報システムについて、インターネットなどを利用して調べようとしている。 | | 「学習活動への取り組み」「プリントによる提出物状況」などを基にA・B・Cの3段階で評価する | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 | 序編 情報とメディア 第1章 情報とメディアの特徴 ・ 第2章 コンピュータの活用 第1編 情報社会と情報モラル 第1章 人・社会とのかかわり・第2章 技術とのかかわり・第3章 法とのかかわり ※Microsoft Officeを利用した実習を行います。 | | | |
| 前期 期末 | 間 | 第2編 デジタル情報と情報の活用 第1章 情報のデジタル表現 第2章 情報の表現と電達 ※Microsoft Officeを利用した実習を行います。 | | | |
| 後期 中間 | 期 | 第3編 情報通信ネットワーク 第1章 コミュニケーション手段の発達 第2章 インターネットのしくみ ※Microsoft Officeを利用した実習を行います。 | | | |
| 後期 期末 | 末 | 第4編 望ましい情報社会の構築 第1章 情報社会における問題解決 第2章 情報システム ※Microsoft Officeを利用した実習を行います。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|--------|---|-------------|
| 教科名 | 商業 | 科目名 | ビジネス基礎 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修・選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 921円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 電卓使用 (各自持参) | | | | |
| 学習目標 | 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、ビジネスの意義や役割について理解するとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育む。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの意義や役割を理解している。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | ビジネスの諸活動に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。また、ビジネスの諸活動を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ビジネスの諸活動に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 | | | 「授業中への取り組み態度」「提出物の状況」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 学期 | 学習内容・方法 (予定) | | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 間 | 第1章 商業の学習ガイダンス | | | |
| 前期期末 | | 第2章 経済と流通の基礎 第3章 ビジネスの担い手 第4章 企業活動の基礎 | | | |
| 後期中間 | 期 末 | 第5章 ビジネスと売買取引 | | | |
| 後期期末 | | 第6章 売買に関する計算 第7章 ビジネスとコミュニケーション | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---|----------|--|----------------|
| 教科名 | 商業 | 科目名 | 経済活動と法 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | ○(通年)・○(半期) | 履修区分 | 必修・○(選択) | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 1,114円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・○(なし) |
| 受講をする上での注意 | 教科書のほかに『六法全書』が必要です。 | | | | |
| 学習目標 | ビジネスに必要な法規に関する基礎的な知識を習得し、経済社会における法の意義や役割について理解するとともに、経済事象を法律的に考え、適切に判断して行動する能力と態度を育む。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 経済活動や市民生活のあるところ法あり、と実感し理解することが知識の裏づけをもってなしうるか。 新聞記事などを通してそれらのことが「法化社会」でどのように扱われ、条文と関連できるか具体的にとらえることができるか。 | | | 知識・技能を問う 「筆記テスト」「事例研究」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | ある事象の解釈について、また条文についてなどの生成過程や立法の趣旨を論理的に思考し、どう判断しとらえることができているか。 | | | 思考・判断・表現を問う「レポート」 「事例研究」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 経済生活やわれわれの市民生活が安定的に営まれることは、法の存在による「法化社会」であるからである。従って、法の知識、法的思考が生活上必須のことであることに興味を持ち、意欲的に学習しようとするか。 | | | 「授業中の発言」 「授業への取り組み態度」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 間 | 第1章 法の意義と役割 第2章 権利・義務と財産権 第3章 契約と債権(第4節の手形法・小切手法は省略する) 第4章 会社に関する法(省略する) | | | |
| 前期期末 | | ※ iPadを使ったレポート作成も行う。 | | | |
| 後期中間 | 期 末 | 第5章 企業の責任と法 (消費者法・労働法を中心に) 第6章 経済環境の変化と法 第7章 (家族法) | | | |
| 後期期末 | | ※ iPadを使った事例研究も行う。 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|--|--------|---|--------------|
| 教科名 | 商業 | 科目名 | 情報処理 | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | ⓪年・⓪半期 | 履修区分 | 必修 ⓪選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 957円 | 副教材・実習費 | あり()円程度 ⓪なし |
| 受講をする上での注意 | 「社会と情報」を履修していることが望ましい。 | | | | |
| 学習目標 | ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得し、情報の意義や役割について理解するとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育む。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割について理解している。 情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 | | | 知識・技能を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 | | | 思考・判断・表現を問う「単元テスト」「小テスト」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 情報の収集・処理・分析・表現について関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、情報を活用する実践的な態度を身に付けている。 | | | 「授業中の発言」「授業へのぞむ態度」「自己評価」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 学期 | 学習内容・方法(予定) | | | | |
| ⓪年 | ⓪半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | 第1章 情報の活用と情報モラル 第1節 ビジネスと情報 第2節 情報モラル 第3節 ハードウェアとソフトウェア 第2章 情報通信ネットワークとセキュリティ管理 第1節 情報通信ネットワークの概要 第2節 ビジネス情報の検索と収集 | | | |
| 前期 期末 | | 第3節 ビジネス情報の受信と発信 第4節 セキュリティ管理の基礎 第3章 ビジネス情報の処理と分析 第1節 基本的な表の作成 第2節 関数を利用した表の作成 第3節 グラフの作成 第4節 情報の整列・検索・抽出 | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | 第5節 ビジネスと統計 第4章 ビジネス文書の作成 第1節 ビジネス文書と表現 第2節 図形と画像の活用 第3節 基本文書の作成 第4節 応用文書の作成 | | | |
| 後期 期末 | | 第5章 プレゼンテーション 第1節 プレゼンテーションの技法 第2節 ビジネスとプレゼンテーション | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|---------------------|-----------------------|---|----------------|
| 教科名 | 商業 | 科目名 | 簿記 | 単位数 | 4 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | 必修・○選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★★ | 教科書代金(予定) | 1425円 | 副教材・実習費 | ○あり(990)円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 電卓使用 (各自持参) | | | | |
| 学習目標 | 簿記に関する知識と技術を習得し、その基本的な仕組みについて理解するとともに、 <u>適正な会計処理を行う能力と態度を育む。</u> | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | 個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、簿記の基本的なしくみについて理解している。 個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、いろいろな場面において <u>適正な会計処理を行う。</u> | | | 知識・技能を問う「定期テスト」「検定問題」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | いろいろな処理法や記帳法について、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。 また、 <u>適正な会計処理を行う能力を適切に表現できる。</u> | | | 思考・判断・表現を問う「ノート」「問題集」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 個人企業における簿記に関心をもち、その知識と技術の習得をめざして意欲的に取り組むとともに、企業において日常発生する取引について <u>適正な会計処理を行う実践的な態度を身につけている。</u> | | | 「授業への取り組み態度」「ホームワーク」「休業中の課題」などを基にA・B・Cの3段階で評価 | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 第1章 簿記の基礎 | 第6章 仕訳帳と総勘定元帳 | | |
| | | 第2章 資産・負債・純資産と貸借対照表 | 第7章 試算表 | | |
| 前期期末 | 間 | 第3章 収益・費用と損益計算書 | 第8章 精算表 (第20章で学習する) | | |
| | | 第4章 取引と勘定 | 第9章 決算 (第21章で学習する) | | |
| | | 第5章 仕訳と転記 | | | |
| | | 第10章 現金・預金などの取引 | 第15章 その他の債権・債務の取引 | | |
| 後期中間 | 期 | 第11章 商品売買の取引 | 第16章 固定資産の取引 | | |
| | | 第12章 掛け取引 | 第17章 個人企業の資本の取引 | | |
| | | 第13章 手形の取引 | 第18章 販売費及び一般管理費と税金の取引 | | |
| | | 第14章 有価証券の取引 | | | |
| 後期末 | 末 | 第19章 決算整理 (その1) | | | |
| | | 第20章 8桁精算表 | | | |
| | | 第21章 帳簿決算 | | | |
| | | 第22章 会計帳簿 | | | |
| | | 第23章 伝票 | | | |
| | | 第24章 決算整理 (その2) | | | |
| | | 第25章 財務諸表の作成 | | | |
| | | ※ ここまでが日商3級の範囲 | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|--|-------|---------------------------------|-------------|
| 教科名 | 日本語 | 科目名 | 日本語 I | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | 通年・半期 | 履修区分 | 必修 選択 | 履修年次 | 1年次以上 |
| 授業難易度 | ★☆☆☆ | 教科書代金(予定) | 3400円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・なし |
| 受講をする上での注意 | 日本語を母語としない生徒対象。 | | | | |
| 学習目標 | 進路実現を視野に入れたキャリアパスを作るための運用力を身につける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常会話に必要な語彙, 教科学習に必要な語彙を統合的に身につけている。 ・読解力, 聴解力, 作文力, 会話力を総合的に身につけている。 | | | ミニテストや聞き取りテスト, 作文, 会話ロールプレイテスト等 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・配慮表現や場に対応した適切な日本語表現を選ぶことができる。 | | | 作文や, 会話テスト等 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな言語活動を通して, 日本語によるコミュニケーション力を身につけている。 | | | 出席や授業内の取り組み, 提出物等 | |
| 学期 | | 学習内容・方法 (予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 間 | 1 「日本語 I」の授業について 2 日本語の発音 3 指示の言葉 4 あいさつ, 会話表現, 数字 (読み, 書き, 会話表現, 作文等) | | | |
| 前期期末 | | 5 毎日のあいさつと会話表現 6 数字, 助詞の使い方 (読み, 書き, 会話表現, 作文等) | | | |
| 後期中間 | 期 末 | 7 接続のいろいろ 8 副詞, 副詞的表現 9 会話練習 (読み, 書き, 会話表現, 作文等) | | | |
| 後期末 | | 10 副詞, 接続詞, 会話表現のまとめ 11 動詞のフォーム (読み, 書き, 会話表現, 作文等) | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|--|--------|-------------------------------|--------------|
| 教科名 | 日本語 | 科目名 | 日本語Ⅱ | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | ○通年・半期 | 履修区分 | 必修・○選択 | 履修年次 | 2年次以上 |
| 授業難易度 | ★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 3400円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・○なし |
| 受講をする上での注意 | 日本語を母語としない生徒対象。「日本語Ⅰ」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 日本語Ⅰで習得した知識を基に、進路実現を視野に入れたキャリアパスを作るための運用力を身につける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常会話に必要な語彙、教科学習に必要な語彙を統合的に身につけている。 ・読解力、聴解力、作文力、会話力を総合的に身につけている。 | | | ミニテストや聞き取りテスト、作文、会話ロールプレイテスト等 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・配慮表現や場に対応した適切な日本語表現を選ぶことができる。 | | | 作文や、会話テスト等 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな言語活動を通して、日本語によるコミュニケーション力を身につけている。 | | | 出席や授業内の取り組み、提出物等 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期中間 | 中 | 1 「日本語Ⅱ」の授業について 2 初めて会った人に話す。 3 店の人と話しながら買い物をする。 4 自分の目標や進路の話聞く。 5 自分が住んでいる町の情報を収集する。 | | | |
| 前期期末 | 間 | 6 ハプニングに対応して事情を説明する。 7 旅行の計画を立てる。数字、助詞の使い方を学ぶ。 8 これまでの経験について話す。感謝の気持ちを述べる。 9 アルバイト先での会話(集団で過ごす中で)を実践する。 | | | |
| 後期中間 | 期 | 10 地域社会の中で役割について話す。 11 わたしの健康法について話す。 12 社会に対する意見を述べる。 (読み、書き、会話表現、作文等) | | | |
| 後期期末 | 末 | 13 自分の国の習慣や行事を説明する。 14 日々の生活の中で気になるニュースや事柄について自分なりの意見を持ち、疑問を解決する。 (読み、書き、会話表現、作文等) | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|--|--------|-------------------------------|--------------|
| 教科名 | 日本語 | 科目名 | 日本語Ⅲ | 単位数 | 2 |
| 開講時期 | ○通年○半期 | 履修区分 | 必修・○選択 | 履修年次 | 3年次以上 |
| 授業難易度 | ★★★☆☆ | 教科書代金(予定) | 3400円 | 副教材・実習費 | あり()円程度・○なし |
| 受講をする上での注意 | 日本語を母語としない生徒対象。「日本語Ⅱ」を履修済みであること。 | | | | |
| 学習目標 | 日本語Ⅰ、Ⅱで習得した知識を基に、進路実現を視野に入れたキャリアパスを作るための運用力を身につける。 | | | | |
| | 評価の観点 | | | 評価の方法 | |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常会話に必要な語彙、教科学習に必要な語彙を統合的に身につけている。 ・読解力、聴解力、作文力、会話力を総合的に身につけている。 | | | ミニテストや聞き取りテスト、作文、会話ロールプレイテスト等 | |
| 思考力・判断力・表現力等 | <ul style="list-style-type: none"> ・配慮表現や場に対応した適切な日本語表現を選ぶことができる。 | | | 作文や、会話テスト等 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな言語活動を通して、日本語によるコミュニケーション力を身につけている。 | | | 出席や授業内の取り組み、提出物等 | |
| 学期 | | 学習内容・方法(予定) | | | |
| 通年 | 半期 | | | | |
| 前期 中間 | 中 間 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本語を使った言葉の地図を作る。(マッピング) | | | |
| 前期 期末 | | <ul style="list-style-type: none"> ・読解力を磨く。 ・イラストを見て考える。 ・文章や図を表にする。 ・表やグラフの内容を読み取る。 ・理由や意味を考えながら素材を読む。 | | | |
| 後期 中間 | 期 末 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現力を磨く。 ・キーワードを探して繋いで書く。 ・イラストを書いてみる。 ・定義をしてみる。 ・辞典を作る。 ・パラグラフを書く。 ・接続表現で論理を作る。 | | | |
| 後期 期末 | | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの習得した知識を用いて、取り組み中心アプローチを基に、進路実現に向けた行動リストを作り、必要な表現を確実に身につける。 | | | |